

工学部機械工学科

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

工学部機械工学科は、機械工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、深い研究を通じて自ら学び、考え、行動できる人材を育成することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦労と喜びへと促します。

専門力の育成とは、まず、社会人としての基本的なコミュニケーション能力、技術者としての使命感、倫理観などの素養、また、英会話能力の修得と国際的な感覚などの教養を高め、専門分野と密接なつながりをもつ工学の基礎となる数学、物理学、化学を学び、機械工学の理論や現象を理解する能力を身につけることが重要です。その上で、機械工学の基礎から応用までの体系的な知識と近年では不可欠となったコンピュータ処理の能力を身につける必要があります。また、実験、実習および演習を通じて創造的な機械設計の実践的、体験的学習によって、問題の発見、探求や解決能力を養い、機械技術者として環境への理解を深め、環境に優しい機械の設計やものづくりを行う能力を身につけることを目的としています。

機械工学は「ものづくり産業」に直接的に結びついた学問です。私たちが日常の生活で便利に利用している、自動車、鉄道、航空機などの輸送機械や、デジタルカメラ、デジタルオーディオプレーヤーなどの家電製品などから、いまあなたが手にしているこの冊子までのすべてが、機械工学という学問と科学技術の結集によってつくられているのです。それらをつくる工場では、高度に自動化され、システム化された複雑な機械によって、いろいろな新しい製品をつくりだしています。21世紀は情報技術の革命時代だといわれています。その主役であるコンピュータを始めとする電気・電子機器やロボットで代表される電子制御機械なども、ものづくり技術に密接な関係を持っています。また、地球環境を保全しつつ持続が可能な(sustainability)社会をつくる「循環型社会の形成」の考え方が世界的な関心の高まりになっていきます。私たちの活発な経済活動にともなう多量のCO₂の排出などで進行する地球温暖化や、化石燃料の枯渇、酸性雨、オゾン層の破壊などを防止する対策が必要です。機械工学では、消費エネルギーの削減、光や風力発電機の開発、環境汚染防止装置、廃棄物の再資源化技術、リサイクル設計などのさまざまな先進的技術を生み出しています。このように、機械工学はあらゆるものづくり産業で重要な役割を果たし、私たちの日常生活で大きく役立っているのです。

機械のしくみを、自動車を例にとって考えてみましょう。自動車が走るには、ガソリンという燃料を燃焼によって熱エネルギーに変え、エンジンによって有効な機械エネルギーに変換される必要があります。それをプロペラシャフトなどの動力伝達装置を通じて車輪に伝えて、初めて走行することができるのです。また、車体に対しては、重量の軽減や空気抵抗を小さくすることなどによる燃費の改善、安全な走行性能の維持と安全な構造とするために、最適な形状と材料が選択されています。皆さんには、このように機械のはたらきや性能、さらに機械を使ってものをつくる方法などを学ぶことになります。

機械工学科 (*Department of Mechanical Engineering*) のおもな専門分野は、次の3つの分野からなっています。地球環境問題と関係して、自然に存在するエネルギーを有用な仕事に変換する**エネルギーの分野**、機械を作るためには機械を

構成しているそれぞれの部分の強さや破壊が起こる原因を追求したり、部品を組み立てるときの相互の関係を考慮して機械の設計を行うなどの**強度設計の分野**、そして設計図面から実際の製品に成形や加工する手段や方法を考案したり、加工に必要な最適な材料の選択を行うなどの**材料加工の分野**です。これらの専門分野に加えて、21世紀の最も重要な課題とされている地球環境問題と関連して、CO₂の削減を狙った省エネルギー、エネルギーの高効率的な有効活用、資源のリサイクル化や循環を狙いとした生産システムなどの新しい領域の学問も視野に入れて、「環境に優しい機械のシステム設計技術を身につけた技術者」の教育を目指し、以下に示す教育目標と人材の養成目標を設定しています。

2. 2 学位授与の方針

機械工学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。

(専門力)

9. 機械工学の専門分野の基礎的な理論・概念に関する知識を身につけている。
10. 機械工学の専門分野の高度な理論・概念に関する知識を身につけている。
11. 機械工学の専門分野の方法論に関する知識を身につけている。
12. 機械工学の専門分野の情報・データを理論的に分析し、問題解決のために応用できる。
13. 自由な発想のもと、新たな知見を想像する力が備わっている。
14. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用する力が備わっている。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんができる上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。機械工学科の標準教育プログラムは、以下の(1)～(8)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間

とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(3) 工学の基礎としての数学、自然科学を活用する力を身に付けることができる

工学のさまざまな分野で、多くの自然科学の知識が用いられます。特に、力と動きの関係、熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性と、自然環境を理解するために化学が必要となります。また工学の各分野、物理学、化学で用いられる式を理解し、応用するために数学が必要となります。専門基礎科目群においては、これらの、工学系分野の基礎となる数学、物理学、化学を学びます。それぞれの専門分野において、既存の知識を身につけるだけでなく、創造的な仕事をする上でも、これらの基礎知識がしっかりと身に付いていることが重要です。

(専門力)

(4) 機械を設計するうえでの基本である材料の力学的な解析手法を学ぶ

機械や装置などを設計するときの基本的な要素としては、それらに作用する外力やその種類と大きさの想定、これらが機械や装置の各部分に作用した時の内力や強さ、安全性などについて理論と実験の両面から解析することが必要となります。また、材料の変形、損傷、破壊等材料の信頼性保証などに関する基礎知識が必要とされます。この情報化社会においては、様々な情報・機械・機器が氾濫しており、これらは人間の手で設計され、運用されています。それに使われる機械に関する技術は、ますます高度となる中で、その特殊な構造や先端技術から生じる内在的な危険をいち早く予見できるのは、それらを設計する設計者や技術者自身であり、これらを安全かつ低リスクで運用し、安全・安心な社会を形成していくための機械の設計知識の習得が必要とされます。

(5) 熱流体の力学特性の基礎を学び、効率的なエネルギー変換や環境に優しい燃焼などの原理および技術動向を学ぶ

機械やプラントなどでは、その性能、機能や能力を最大限に発揮させ、それらを動かすためにエネルギーが必要となります。自動車が、動力源となるガソリンや電気エネルギーなしでは走れないように、仕事をすることのできる能力（エネルギー）が必要になります。これらのエネルギーの発生、供給、さらに効率的な変換を行うことが、省エネルギーや地球環境の観点から重要視されています。特に、環境負荷を軽減できる形で効率良く熱および流体のエネルギーを変換する技術は、機械工学の大きな役割のひとつであり、これらに関する基礎知識の修得は非常に大切となります。さらに環境問題と関連して環境負荷に影響をおよぼす燃焼現象やそれらを計測するセンサーなどに関する素養を十分に身につけておくことが必須の事項となります。

(6) 機械をつくるための材料の性質とその加工に必要な技術と知識を学ぶ

設計された機械や装置を設計するためには、上で述べられたように、それらの機械や装置が目的としている性能、機能や機構を解析・シミュレーションできる力学的原理の理解が必要です。機械や装置に使われている材料の立場からは、これまでの材料が設計で必要とされる性能を備えているのかを判断し選択できることや、新しい設計や構造に適した新しい材料を開発製造することに関する知識が必要とされます。さらに、それらの機械や装置を実際に製作あるいは稼動させるためには、加工技術に関する体系的な知識がなくてはなりません。環境に調和した材料や製品の生産において、極限的な省エネルギーや少量多品種生産のための先端的な生産プロセスが不可欠で、溶融成形加工、機械加工、塑性加

工などのプロセスを理解していることが必要です。また、それぞれの加工技術に適した材料選択や材料開発についての知識も重要です。

さらに、地球環境問題と関連して、廃棄物の低減、リサイクルの強化、環境負荷の低減を可能にする環境調和型の材料開発が求められています。機械に求められる性能や機能ばかりでなく、機械や材料の生産における省資源・省エネルギー化、材料におよぼす環境の影響などの知識の修得が必要です。さらに、機械や材料の環境負荷の評価・解析方法（LCA: Life Cycle Assessment）を学ぶことにより、環境への対応手法や環境の負荷を低減する機能材料や表面・界面技術など幅広い知識が技術者として必要になります。

(7) 高度なコンピュータ機能を活用した機械設計（CAD）や生産加工（CAM）の基礎的原理や応用技術を実験・実習・演習を通して学ぶ

今日では、情報技術はコンピュータを介して機械や装置などを設計し、生産を進める上で、欠くことのできない強力なシステム技術となって組み込まれています。例えば、製造業における工場での製品の自動生産（FA: Factory Automation）を始めとして、コンピュータによる設計／製造（CAD/CAM: Computer-Aided Design/Manufacturing）から生産機械や設備の保守管理、できあがってくる製品の品質試験などのすべての情報を総合的に連携した統合システム（CIMS: Computer-Integrated Manufacturing Systems）の思想で、近代的な工場においては実際に多くの製品が製造されています。

このような背景のもとに、機械技術者としては、コンピュータ利用に関してハードウェアとソフトウェアの基本的操作方法およびその周辺機器の仕組みなどについて熟達できるようになる必要があります。また、機械工学の種々の分野に関連した現象やその測定法および制御方法を理解し、それらの現象を計算機支援解析シミュレーション（CAE: Computer-Aided Engineering）によって知識を深く身につけることが必要になります。さらにこれらの知識に基づいて、3次元CADなどを利用した実践的な演習によって問題の探求や解決能力を養います。すなわち、より高度で具体的な機械や装置の設計を試み、それぞれの機械に対する理論や特性を学ぶことによって、創造的な思考をもったデザイン能力を発揮できる得る知識や能力を身につける必要があります。

(8) 機械工学と最も関連の深い社会・産業界などの専門技術や技術動向について学ぶ

機械技術者として社会や企業で活躍するためには、機械工学の基礎から応用までの専門的知識はもちろん、機械工学と関連の深い社会や産業界などで課題となっている情報を知り、様々な角度から物事を見ることのできる能力が必須の条件となってきます。機械工学に関連する諸科学の分野で、産業界の最先端技術動向、環境問題はもとより、製品生産における品質管理（TQM: Total Quality Management）や企業経営のあり方と起業家（Entrepreneur）精神、知的財産権や情報化に関連する倫理問題などを学ぶことは、技術者として自己の個性を理解し、自立的に進路を選択する能力や態度を身につけることになります。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

第3章で説明した標準教育プログラムは、4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を示したもので、皆さんが学修を進めていくためには、学修の達成に必要な授業科目が記された教育課程が必要です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、標準教育プログラムに基づく教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。

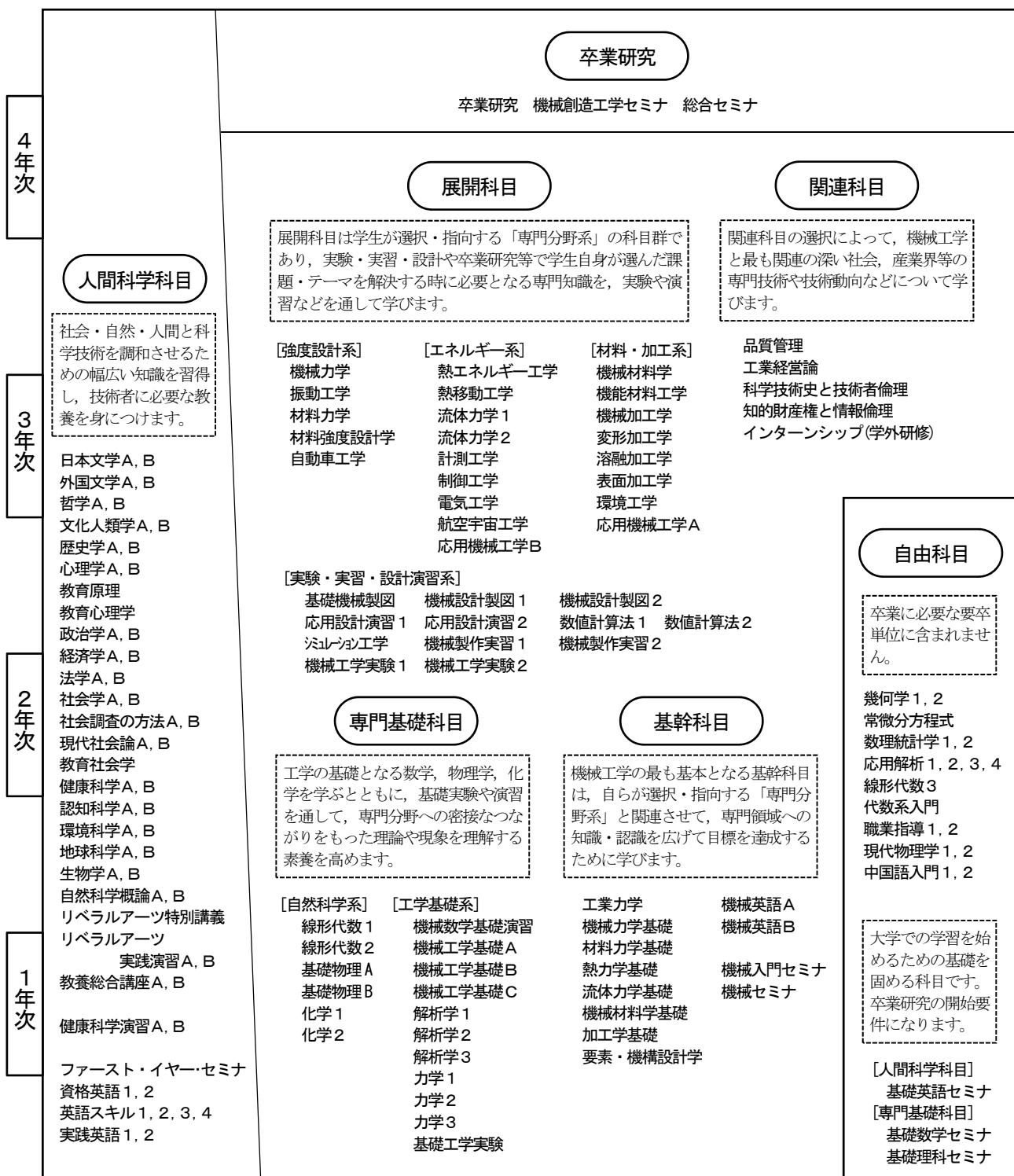


図-1 教育課程の概念図

4・1 人間科学科目群

(1) 教育内容

a. 人間科学科目群 Aグループ

① ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ (First Year Seminar、略してFYS、初年次セミナ) とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法（スタディ・スキルズ）」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方（つまり知的レベルをステップアップする方法）のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言いかえると皆さんがあなたの手で大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さん社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとするとき、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきっと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初步からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれません、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語1・2」と「英語スキル1・2」、2年次には「英語スキル3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語1・2（資格コース）」、「実践英語1・2（スキルコース）」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナ

基礎英語セミナでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記FYSと語学や体育の実技を含むAグループとBグループから成り立っています。なかでもBグループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるようになると工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるようにと、これが何を描いても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」それと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを發揮できるよう、Bグループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは21世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくとともに、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後はAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学

分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL（問題・課題解決型授業）を意識した少人数科目を開設しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群

専門基礎科目群において学習する教育内容および学修到達目標について説明します。図-2には、専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャートが示してあります。

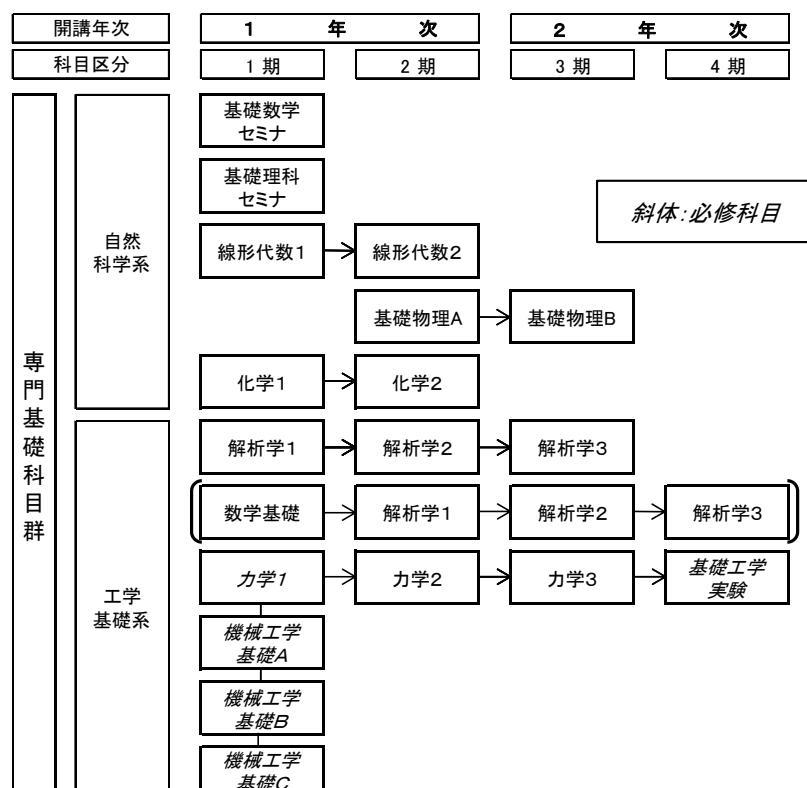


図-2 専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 自然科学系

a. 教育内容

本学の学位授与の方針にあるように、豊かな教養を身につけ、豊かな創造力を身につけるためには、それぞれの専門分野にとらわれずに幅広い自然科学的なものの見方、考え方を修得することが大切です。そのために自然科学系の科目として、数学関係2科目、物理関係2科目、化学関係2科目が編成されています。それぞれの教育内容は、次のとおりです。

ア [数学関係科目] (線形代数1, 線形代数2)

線形代数1と線形代数2では、2つのもの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となる「比例する」という関係を多くのものの間の関係に拡張した線形性と呼ばれる考え方について学びます。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会学等の社会科学においても重要な、2つ以上のもの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

イ [物理関係科目] (基礎物理A, 基礎物理B)

ここでは、高校の物理の復習から始めて、ベクトルと微分積分を使った大学の物理へ進みます。基礎物理Aでは、電磁気学の基礎事項を学びます。電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること、電子の流れが電流であることなど、基本的な自然界の姿を学びます。さらに、電場(電界)や磁場(磁界)といった『場』という概念を学びます。基礎物理Bでは、熱力学の基礎を学びます。熱の微視的な理解、つまり物質の構成要素(原子や分子など)の熱振動のエネルギーとして熱が理解できることを学びます。さらに、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則などを学びます。なお、電磁気学(基礎物理A)も熱力学(基礎物理B)も、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学や熱力学を学ぶ前に、力学を学んでおくことが必要です。

ウ [化学関係科目] (化学1, 化学2)

工科系の学生にとって物質についての基礎知識は不可欠なものです。化学1では物質の構成要素である原子、分子そのものについて学習します。化学2では、それらが集団になったときに現れる性質、挙動が学習内容です。

b. 学修到達目標

自然科学系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(2) 工学基礎系

a. 教育内容

工学は応用科学であり、基礎科学である自然科学とは異なる学問分野であります。工学の色々な部分においては、自然科学の基本原理がいたるところで使われています。したがって、本学の学位授与方針にあるように確かな専門性を身につけるために、皆さんには工学を学修する上で必要となる自然科学(特に、数学・物理・化学)の基礎学力を高めなければなりません。工学基礎系の科目は、これに応えることを目的として設けられています。工学基礎系の科目は、数学関係5科目、物理関係4科目、物理・化学関係の実験1科目、機械工学基礎3科目で編成されています。それぞれの教育内容は、次の通りです。

ア [数学関係科目] (数学基礎, 解析学1, 解析学2, 解析学3)

工学基礎系の数学では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる微分積分学を、段階を追って学習していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいう言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかりと考えて学習することによ

り、微分積分学の基本的な考え方方が身につき、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみたす式より将来を予測することが出来るようになり、自然の中に存在する因果関係（何が原因で何が結果か）にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、工学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目的受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

イ [物理関係科目] (力学1, 力学2, 力学3)

力学とは物体の運動を知ることを目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。物体の代表例は工業材料（歯車やクラランクなどの機械部品、あるいは車や人衛星、建築物などの製品）です。工業材料の静止状態を扱う科目的基礎事項も、そして工業材料が動く状態を扱う科目的基礎事項も、力学1, 2, 3という科目で扱います。力学1, 2, 3を通して、ベクトルと微分積分を使って力の合成・分解、運動方程式を解いて物体の運動を決定する手順、エネルギー保存則など力学の重要事項を学びます。特に大切なのは、『運動方程式は微分方程式であり、それを満たす解（関数）が運動を表す』という点です。その具体例として、放物運動、円運動、バネの力による単振動、摩擦がある場合の減衰振動、周期的な外力が働く場合の強制振動など、工業材料の動きを理解する上で重要な運動を扱います。さらに、振動の応用として理解できる波動の基礎事項も力学3で学びます。

ウ [物理・化学関係科目] (基礎工学実験)

ここでは、工学の基礎としての物理実験、化学実験を行います。物理実験では、物理の基本的な5テーマの実験を通して、原理と実験の関係、および測定と誤差について学びます。実験の吟味、関連する演習を行うことも大切です。化学実験では化学反応の本質を、5テーマの実験を通して学びます。化学実験の基本操作を習得することも重要な目的となります。

エ [機械工学関係科目] (機械工学基礎A, 機械工学基礎B, 機械工学基礎C)

機械工学基礎A、機械工学基礎Bでは、基本的な数学や力学の内容が機械工学の強度計算や設計計算などにどのように用いられるか、演習問題を通して関係性を学びます。専門的な学修はそれぞれの授業にて行われますが、大学入学までに学習した数学や力学、大学で学ぶ発展的な数学・力学の知識が機械工学を学ぶ上で非常に重要であることを理解します。機械工学基礎Cでは、コンピュータの導入教育として表計算ソフトの使い方から工業製品の設計に欠かせない3次元CADの操作法、シミュレーション解析技術の導入まで幅広く学びます。

b. 学修到達目標

工学基礎系科目的学修到達目標は学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(3) 基礎数学セミナ・基礎理科セミナ

ア [数学関係科目] (基礎数学セミナ)

基礎数学セミナでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ [物理・化学関係科目] (基礎理科セミナ)

大学で学ぶ科目の中には、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

4.3 専門科目群

専門科目群の授業科目は、1～3年次に配置した基幹科目、1～4年次の展開科目、関連科目および卒業研究の科目から構成されています。図-3には、それぞれのカリキュラム・フローチャートが示してあります。

これらの授業科目について教育内容の概要を以下に説明します。なお、各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかについては、後述する学修到達目標の項において、具体的にまとめて示してあります。

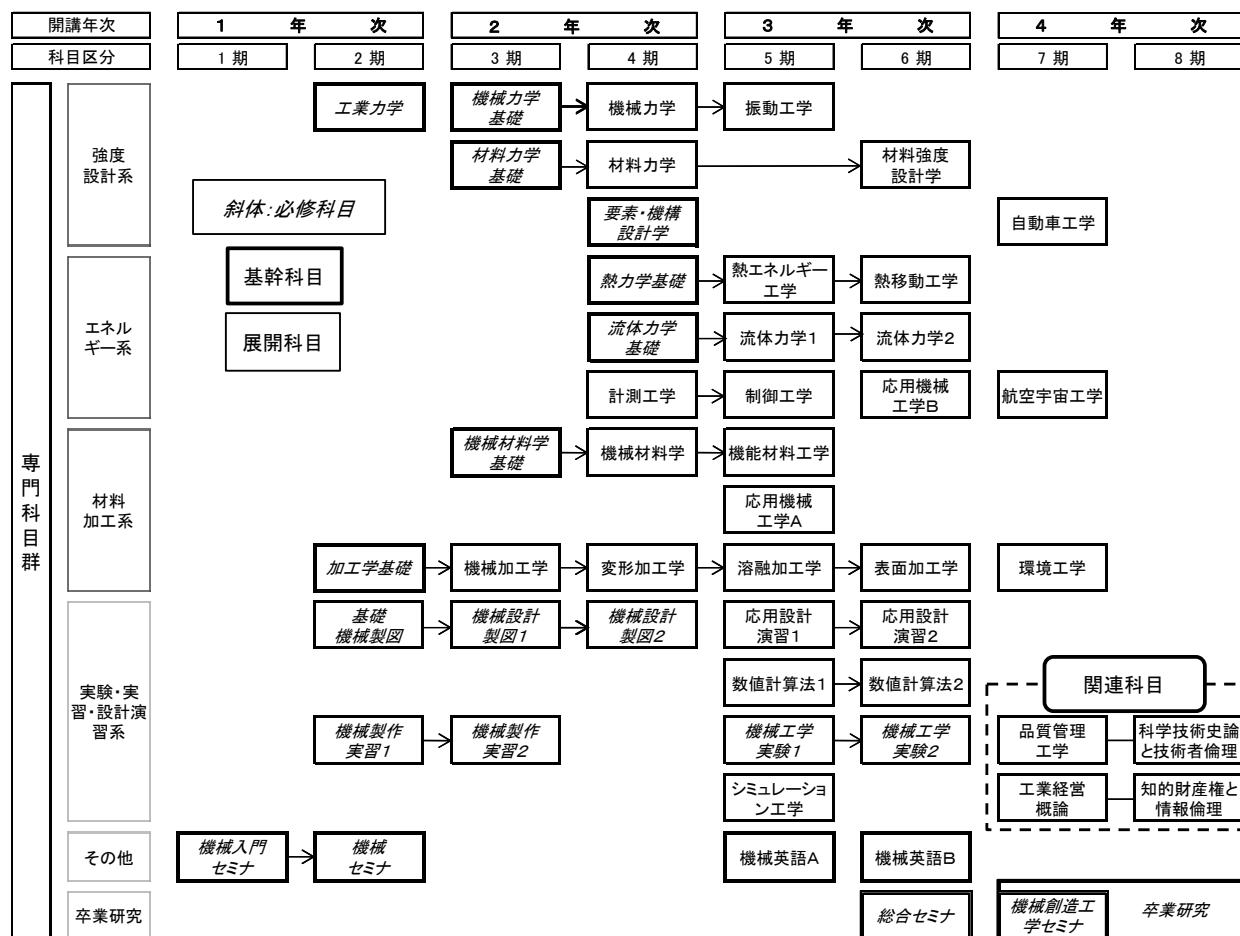


図-3 カリキュラム・フローチャート

(1) 基幹科目

基幹科目は、機械工学の最も基礎となる授業科目で構成されています。これらの科目の学習を通じて、段階的に専門領域への知識や認識を広げ、機械技術者 (*Mechanical Engineer*) としての目標達成能力を身につけるために学びます。基幹科目は、機械工学の専門知識をより深く理解していくための基盤となる科目としての必修科目と選択科目から構成されています。

① 強度設計系（工業力学、機械力学基礎、材料力学基礎、要素・機構設計）

工業力学では、機械工学を学んでいく基礎として、機械工学の各分野の学習に必要な数学、物理学に関連した基礎知識を習得します。機械力学基礎では、専門基礎科目の力学を基に、機械の運転時に発生する振動の原因やその抑制について考えるための基礎として、自由振動系・強制振動系の力学について学びます。材料力学基礎では、機械や構造物の設計の基礎として不可欠な物体の応力と変形について学びます。要素・機構設計学では、機械を製作するときに用いる共通の規格品としてのボルト・軸・キーなどの機械要素部品と呼ばれるものについて、どのような力が加わるかについて学び、機械を設計する時にどのように部品を選択し用いるのかについて学びます。

② エネルギー系（熱力学基礎、流体力学基礎）

熱力学基礎では、実際のエンジンで行われている、熱から機械仕事への変換についての法則（熱力学の第1法則）について学びます。また、流体力学基礎では、流体の持つ性質や静止した流体の壁面に働く力および理想流体の基礎理論とその解法について学びます。

③ 材料・加工系（機械材料学基礎、加工学基礎）

機械材料学基礎では、ものづくりに使われる金属および合金の結晶構造や組織、材料としての性質などと、これら材料の特性および用途について学びます。また、強い材料の内部の状態や材料を強くする方法（熱処理）についての理解を深めます。また、加工学基礎では、製品設計仕様に合致した高品質・高信頼性を持った機械および部品をつくるための最適な加工方法の実際を学びます。

④ 機械入門セミナ、機械セミナ

機械工学の学問体系の概要を学ぶ動機づけ科目としての機械入門セミナ、機械セミナがあります。機械入門セミナでは、機械工学科のカリキュラムの特長、教育目標および将来の指針を与えるとともに、機械工学の概要ならびに各授業科目間の関連について学びます。機械セミナでは、専門的な知識を学ぶ前に与えられた機械工学の課題に取り組むことで、自由な発想を養う能力を身につけます。

⑤ 機械英語A、機械英語B

機械工学で学んだ専門的な知識は日本国内のみならず、海外でも役に立ちます。そのため、学んだ知識を英語でも理解し説明できるようになる必要があります。機械英語A、機械英語Bでは、一般教養で学んだ英語の知識を基に、機械工学で求められる専門的な英語について学びます。

（2）展開科目

展開科目では、卒業研究などや将来就職した場合に皆さんのが選んだり与えられたりした課題・テーマを解決する時に必要となる専門知識を学ぶことになります。展開科目は、「強度設計系」、「エネルギー系」、「材料・加工系」の3つの専門系の分野と、機械工学の体系をより着実に身につけ、展開・応用、実践ができるように、実験・実習・設計演習系の授業科目とで構成されています。これら4つの系の教育内容は以下のとおりです。

① 強度設計系（機械力学、振動工学、材料力学、材料強度設計学、自動車工学）

機械力学では機械力学基礎で学んだ自由振動や強制振動について、複雑な機械要素などへ展開して理解を深めます。また、振動工学では共振現象やその防止、回転軸の危険速度や動つり合いなど、機械工学分野において重要な振動現象について学びます。

材料力学では、機械や構造物などの材料に加わる曲げ、ねじり、柱の座屈やひずみエネルギーなどの理論について学びます。さらに、材料強度設計学では、材料の破壊挙動と強さや、ぜい性、じん性などについての材料強度について学びます。シミュレーション工学では、実際にコンピュータを使って実際的な部材の応力・ひずみ、変形の解析やこれら部材の強度に関する設計を行います。

自動車工学では、自動車の基本的構成、主要部位の構造について最新の技術を含めて学び、自動車の性能や力学などについて基礎的な理論を学びます。さらには最新の環境対応自動車についても学びます。

② エネルギー系（熱エネルギー工学、熱移動工学、流体力学1、流体力学2、計測工学、制御工学、電気工学、航空宇宙工学、応用機械工学B）

各家庭から会社、工場など人間を取り巻くあらゆる環境においては、熱や電気などのエネルギーが必要不可欠です。ここでは熱、電気、流体などのエネルギーを他のエネルギーに変換して有効的に利用するメカニズムを学びます。まず、熱エネルギー工学では、熱力学基礎で学んだ知識を基にして熱力学第2法則およびエントロピーの基本概念についての解説を行い、その上で実際のエンジンなどを題材としたエネルギー有効利用の方法について学びます。次に、熱移動工学では、熱の移動形態や輸送現象について学び、耐熱設計への応用や実際のエネルギー変換装置に対する視野を広げる事を目標とします。また、流体力学1、流体力学2では、実在流体の基礎式から流体の速度や圧力を予測する方法を学び、機械エネルギーを流体エネルギーに変換するポンプ・送風機などの流体機械の設計方法について学びます。計測工学では、長さ、角度、圧力等の機械量や速度、温度、振動、電磁波等の物理量を検出する方法、およびこれらのセンサーを用いた制御システムを学びます。制御工学では、制御系の入出力特性の評価方法や制御系の安定性の解析方法について学びます。また、電気工学では、機械の駆動や制御に必要である電気回路素子の基本的性質や回路内の動作を現象的に理解し、回路の考え方・解析方法を学びます。さらに、航空宇宙工学では、流体の圧縮性およびふく射による熱移動など、それまでに学んだ熱力学・流体力学から応用航空宇宙工学への橋渡しとなる内容を学びます。

③ 材料・加工系（機械材料学、機能材料工学、機械加工学、変形加工学、溶融加工学、表面加工学、環境工学、応用機械工学A）

機械材料学と機能材料工学では、ものづくりに材料を使う立場から、材料への理解を深めます。機械材料学では、自動車などの各種機械に用いられる鉄鋼材料やアルミニウム、マグネシウム、チタン、および非金属材料（セラミクス、プラスチック）について種類や特徴を学びます。この際、これらの材料の適用例や利用加工方法（熱処理・溶接・切削・鋳造・塑性加工など）との関連への理解を深めます。高性能な機械では、機械材料学で学んだ一般的な材料ばかりでなく、強さ以外の特性を持つ材料、複合材料、表面の性質を向上する方法等の知識が必要です。機能材料工学ではそれらの特徴と適用方法について学びます。

機械加工学をはじめとして変形加工学、溶融加工学、表面加工学や機械加工学は、ものづくりの中核となる成形加工技術です。機械加工学では、最近の高精度で高品位なものづくりに必要とされる精密・微細機械加工法について理解を深めます。変形加工学では力による材料の変形を利用した加工法を学びます。一次成形加工の板や棒、線などの素材から、二次成形加工の素形材に相当する熱間鍛造から金属プレス加工まで、材料の力による変形を学習のベースに、各種の具体的な加工の方法について体系的に学びます。溶融・凝固現象を利用した溶融加工学では、溶融した材料を型内に流し込んで冷却・固化させる鋳造法や密着させた材料相互間を結合させる接合法について学びます。表面加工学では、製品の仕上げ処理や表面機能を付加するための加工技術について学びます。

環境工学では、地球環境問題を人間と環境の関わりの視点から学びます。環境に関する国際規格の動向及び材料製品の環境負荷評価法について学び、持続発展可能な循環型生産システムを創造するための考え方や環境調和型の技術について学びます。

④ 実験・実習・設計演習系（基礎機械製図、機械設計製図1、機械設計製図2、応用設計演習1、応用設計演習2、数値計算法1、数値計算法2、シミュレーション工学、機械製作実習1、機械製作実習2、機械工学実験1、機械工学実験2）

実験・実習・設計演習系の授業科目は、本学の教育理念である「創造と調和」における創造性の育成を実現するための実践的教育を目指す最も力を入れている科目です。実験・実習・演習の授業プログラムは、段階的な学修の進行

によって、コンセプトから形あるものに具現化し、創造的な問題発見や問題解決能力を身につけます。

基礎機械製図、機械設計製図1、機械設計製図2では、製図の基礎として品物を製作するのに必要な製作図の描き方とCADの使い方を習得し、さらに3次元CADによる実践的なデザイン教育によって、創造的な思考をもったデザイン能力と問題探求やその解決能力を身につけます。応用設計演習1、応用設計演習2では、機械の設計を行いその中で機械を設計する場合に必要な規格の使い方、部品や部材の強度計算の仕方を学びます。応用機械工学1、応用機械工学2ではその他の科目で学んできた知識を基にして、話題となっている事柄と機械工学の関係について学びます。数値計算法1、数値計算法2では計算力学を学ぶため、FORTRANなどのプログラミング言語を理解し、また、変数、組み込み関数、分岐、繰り返し、配列計算などの使い方を学びます。また、方程式の解を求める逐次二分法やニュートン法によるプログラム、台形公式やシンプソンの公式を用いた数値積分法のプログラムの作成を行います。

機械製作実習1と機械製作実習2では、製品製作の基礎となる溶融加工、接合加工、機械加工、組立・検査の基本的事項について実技を通して、技術と技能の連携の重要性を学びます。機械工学実験1、機械工学実験2では、機械工学の種々の分野に関連した基礎的諸現象をより視覚的に、実践的に理解を深めます。

(3) 関連科目

関連科目は、機械工学と最も関連の深い社会や産業に対する知識や認識を広げて、機械技術者としての目標達成能力を高めることを狙いに置いた授業科目です。関連科目の選択によって、産業界の最先端技術動向、環境問題、企業家精神、知的所有権やIT革命による情報化と関連した倫理問題などについて学びます。

授業科目としては、品質管理、工業経営論、科学技術史と技術者倫理、知的財産権論と情報倫理、インターンシップ(学外研修)があります。

品質管理では、設計、製造段階での品質特性を把握して、統計的な考え方や品質管理手法を用いることで、より良い製品を作り上げるには、どのようにする必要があるかを学びます。工業経営論では、経営者やマネジメントを担うリーダーとして、経営の基礎となるマーケティング、財務諸表の見方、企業における組織・人材の養成をいかに作り、動かすかを経営的視点から学びます。さらに、科学技術史と技術者倫理では、先人の技術者がいかなる思想で技術の開発に努めてきたか、その経緯と人間・社会との関わりについて学び、技術者としての倫理観の涵養と技術の将来を展望する知識とします。知的財産権論と情報倫理では、特許の出願を通じて集まる最新の技術データの分析・調査の方法から出願に至るまでの手法および科学技術者の置かれる状況とその情報を取り扱う倫理観について学びます。インターンシップ(学外研修)は、これまで学んだ専門知識や社会通念がどのような関わりを持っているのかを、企業等での就業体験をとおして確認します。また、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ます。

(4) 卒業研究

専門科目の中で重要な位置を占める科目が「卒業研究科目」です。4年次に行われる卒業研究は、3年次の総合セミナによる導入が行われ、機械創造工学セミナと共に実施されいずれの授業科目も学生と教員とのマン・ツー・マンで教育を受けます。

総合セミナは卒業研究を担当するそれぞれの教員が分担することによって、少人数の学生と教員との密接な人間関係を形成し、色々な相談に応じながら指導を実施します。

機械創造工学セミナでは、専門技術分野の文献を通じて最新の専門技術を調査し、技術者として知っておかなければならぬ最低限の専門知識を養うとともに、あわせて卒業研究への円滑な導入を図ります。また、卒業研究と連携をとりながら、理論解析、実験手法などの予備的演習を行いつつ、幅広い視野から総合的な判断を下す能力とプレゼンテーション能力を養います。

卒業研究は、これまで学んできた授業科目の総括的成果にあたるもので、各自が選択した研究テーマにそって実験や理論計算を行う研究中心的なテーマの他に、設計や製作や特定の課題についての文献調査など、柔軟にテーマを設定して行います。指導教員のもとで、自主性、総合力、分析力、問題解決能力やコミュニケーション能力の発揮を目指します。

て、卒業論文としてまとめて全教員の前でプレゼンテーションを行います。

(5) 学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容を 4 年間の専門教育課程にしたがって学習する順序、習得する知識や学修到達目標については、カリキュラム・フローチャートや学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。各授業科目間のつながりを把握し、自ら学ぶべき学修の内容を考え目標を立ててください。

5. 履修モデル

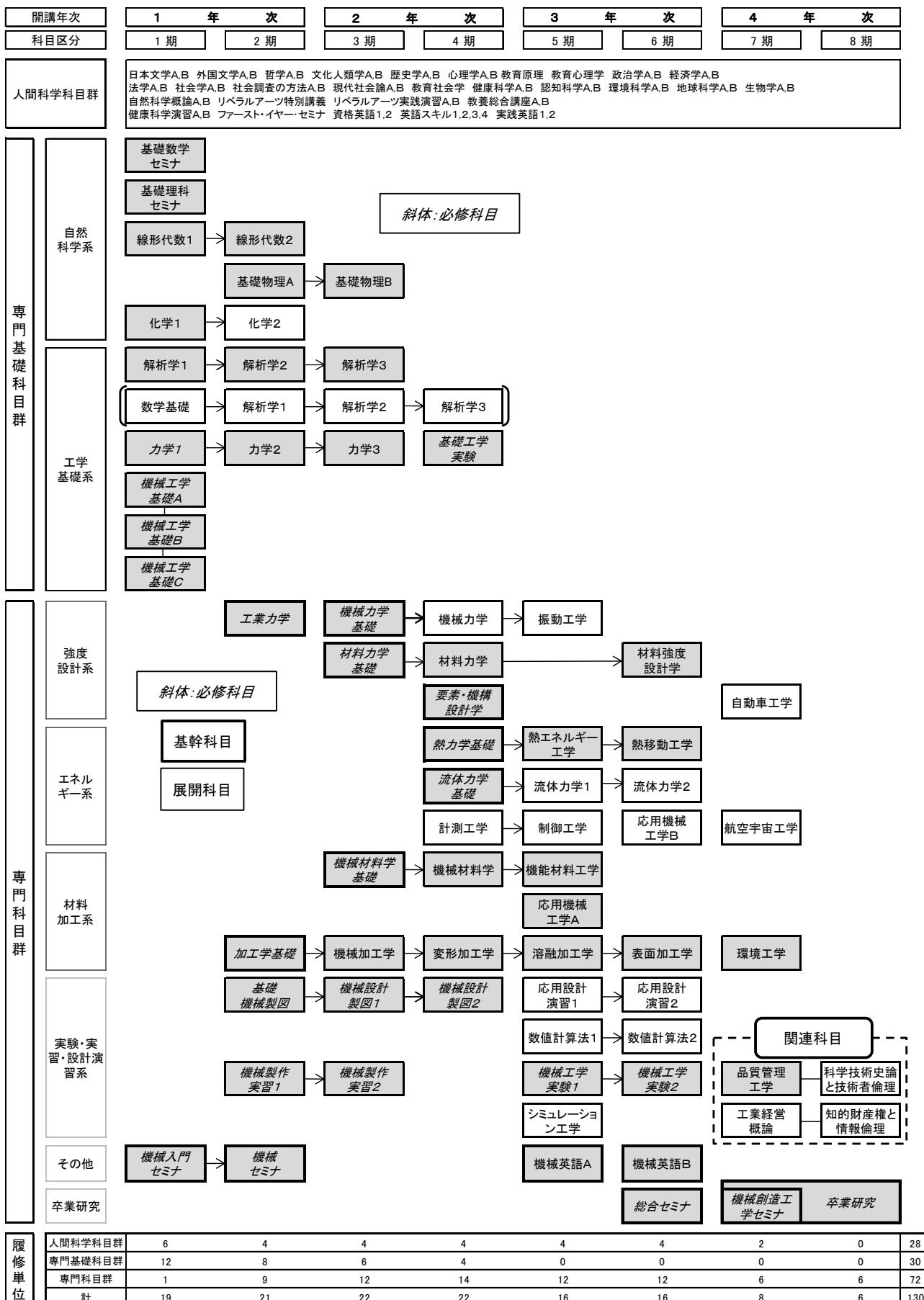
皆さんは、1～3年次の基幹科目によって機械工学の学問として不可欠な基本知識を修得します。さらに、1～4年次の展開科目、関連科目や卒業研究の履修によって、環境に優しい機械工学・ものづくり技術の概念を視野に入れながら、より高い専門知識を身につけるとともに、卒業後の進路を考慮しつつ自分自身で学習計画を立てます。

履修モデルは、卒業後の進路に対応させて、第3章で説明した教育課程の授業科目（専門基礎科目群と専門科目群）をどのように学習していくかを例示したものです。

履修モデルAは鉄鋼業や工作機械などの材料・加工分野、履修モデルBは自動車などの機械設計分野、履修モデルCは航空宇宙などの熱流体エネルギー分野での活躍を想定しています。また、機械工学に関連する学問および研究分野別に授業科目の相互の関係が示してあります。皆さんのが、学ぼうとする分野、興味、将来の進路を考えて、機械工学の専門知識を豊富に持ったキャリア技術者になることを期待します。

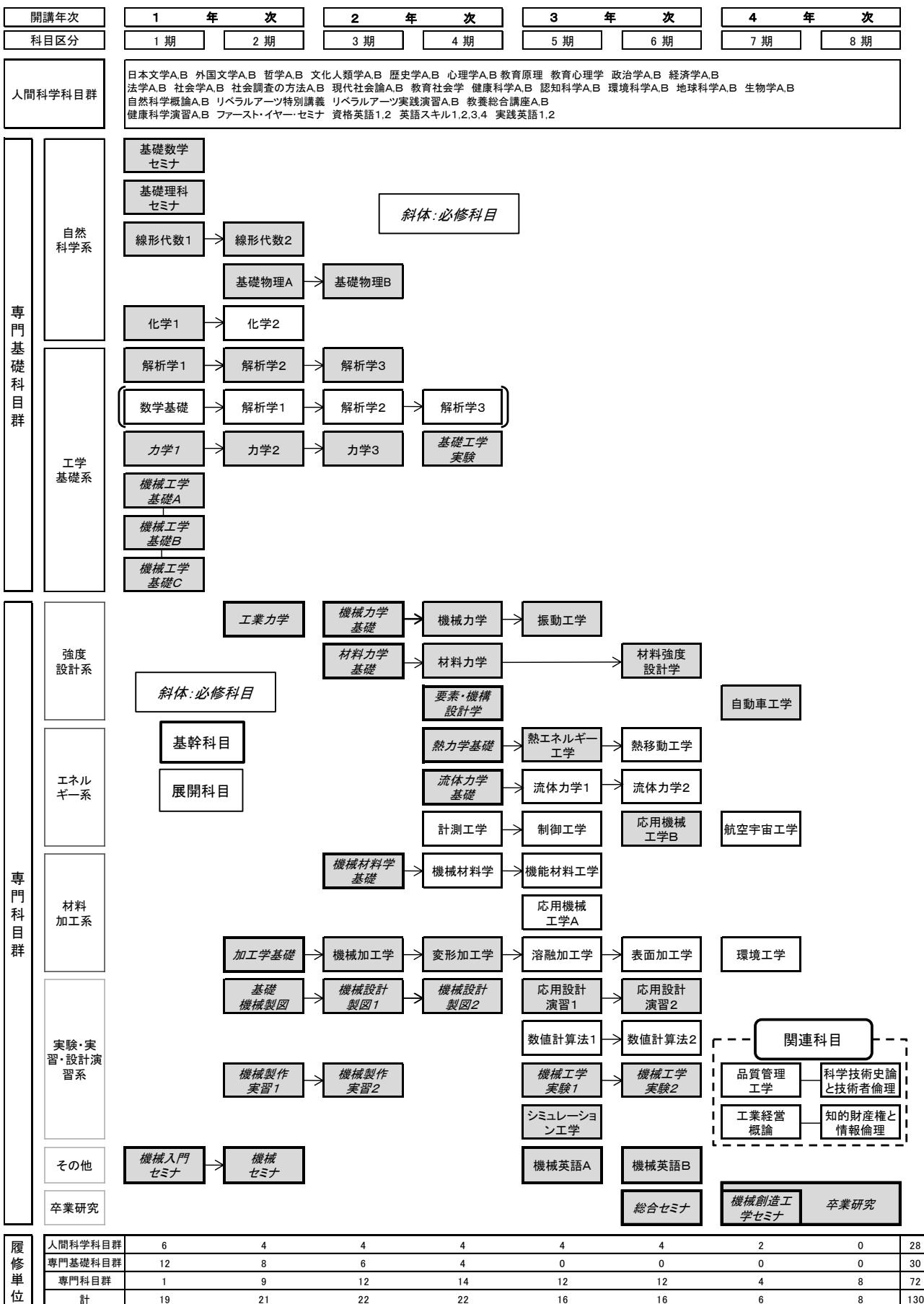
機械工学を学んだ皆さんの卒業後の進路は、機械関連企業を中心に下欄にあげた多方面にわたる産業界で活躍することになります。いずれの産業界においても、その活躍の範囲は機械が主役になって生産する工場（自動車、家庭電気製品、電気機器、医療機器および医薬品、食品などの製造工場）から情報通信の分野につながるコンピュータソフト・システム開発などまでにおよびます。その職種は、自動的に生産する機械やロボットなどの機械の設計をする機械設計技術者、機械部品や各種製品を生産するための生産技術・工程設計・生産管理に携わる生産技術者、新しい製品の研究・開発を行う開発設計者、生産工場などに生産機械などを販売する技術営業などさまざまな職種があります。

履修モデルA：鉄鋼業や工作機械などの材料・加工分野



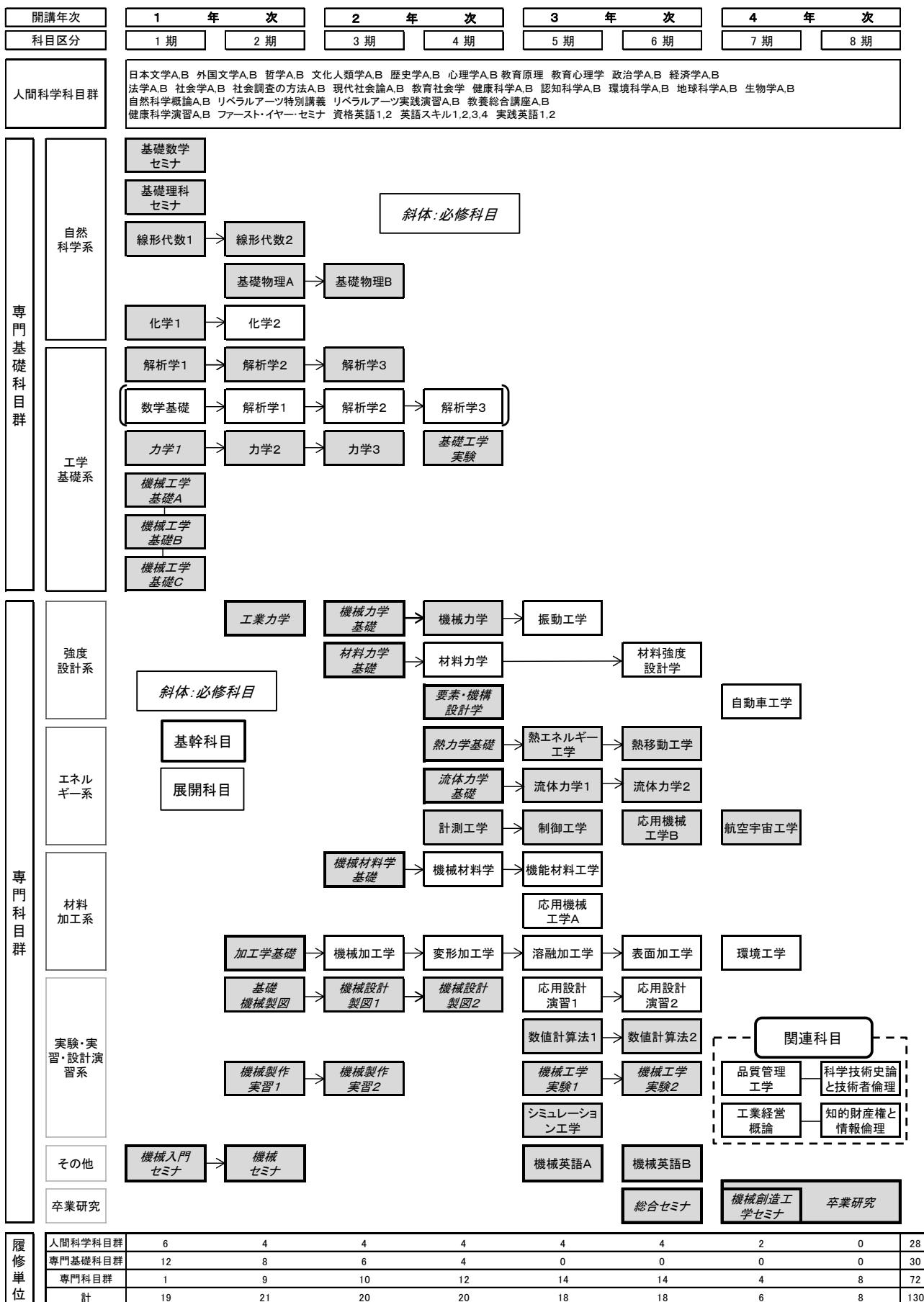
※自由科目を除く

履修モデルB：自動車などの機械設計分野



※自由科目を除く

履修モデルC：航空宇宙などの熱流体エネルギー分野



※自由科目を除く

工学部 機械工学科 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部の教育研究上の目的
工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科の教育研究上の目的
工学部機械工学科は、機械工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、深い研究を通じて自ら学び、考え、行動できる人材を育成することを目的とする。

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 機械工学の専門分野の基礎的な理論・概念に関する知識を身につけている。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	J. 機械工学の専門分野の高度な理論・概念に関する知識を身につけている。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 機械工学の専門分野の方法論に関する知識を身につけている。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 機械工学の専門分野の情報・データを理論的に分析し、問題解決のために応用できる。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 自由な発想のもと、新たな知見を想像する力が備わっている。
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	N. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用する力が備わっている。
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1	1	スタディ・スキルズとは。ノート・ティキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。													10	
						ノートの取り方が効果的にできる。													10	
						文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。													10	
						図書館の利用法がわかる。													10	
						レポートの作成の必要手順が分かる。													10	
						基本的なレポートの作成ができる。													20	
						プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。													10	
						プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。													20	
						授業科目の貢献度														
						TOEIC に出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。													100	
人間科学科目群	Aグループ	資格英語1	1	1	この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのため、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。														10
						英文を読み、その内容を大まかに理解できる。													10	
						基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。													10	
						基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。													10	
						授業科目の貢献度														
						TOEIC に出題される語彙の意味を理解できる。													20	
						短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。													20	
						英文を読み、その内容を理解できる。													20	
						基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。													20	
						基礎的な英文を正確に音読することができる。													20	
人間科学科目群	Aグループ	資格英語2	1	2	この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのため、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方略を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEIC に出題される語彙の意味を理解できる。														20
						短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。													20	
						英文を読み、その内容を理解できる。													20	
						基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。													20	
						基礎的な英文を正確に音読することができる。													20	
						授業科目の貢献度														
						題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。													20	
						題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。													20	
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。													20	
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。													20	
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル1	1	2	この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。														20
						題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。													20	
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。													20	
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。													20	
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。													20	
						授業科目の貢献度														

科 目 群	区 分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標	
						到達目標	評価基準
人間 科学 科目群 A グル ープ	英語 ス キ ル 1	英語 ス キ ル 2	1 [2] [3]	1	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聞くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
		英語 ス キ ル 3	1 [3] [4]	1	「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聞くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
	英語 ス キ ル 2	英語 ス キ ル 4	1 [4] [5]	1	この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聞くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
	実践 英語 1 (資格 コース)	実践 英語 1 (スキル コース)	1 [5]	1	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	題材に関して、理解を深めることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
	実践 英語 2 (資格 コース)	実践 英語 2 (スキル コース)	1 [6] [6]	1	この授業では、前期に開講されている実践英語1(資格コース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
	実践 英語 2 (スキル コース)	実践 英語 2 (スキル コース)	1 [6]	1	この授業では、前期に開講されている実践英語1(スキルコース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。
						題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	評議会や討論会で意見交換ができる。

科目群	区分	授業科目	履修区分	開講期	学修内容	学修到達目標			
			(単位)	必修					
人間科学科目群	Aグループ	健康科学 〈卓球〉演習A	1	1	レクレーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。	授業科目の貢献度		
						正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る	授業科目の貢献度		
		健康科学 〈バドミントン〉演習A	1			正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る	授業科目の貢献度		
						正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる	授業科目の貢献度		
		健康科学 〈硬式テニス〉演習A	1			正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる	授業科目の貢献度		
						積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 ゴール型スポーツの構造を理解できた。 サッカー・フットサルのルールを理解できた。	授業科目の貢献度		
	Bグループ	健康科学 〈サッカー・フットサル〉演習A	1			正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。	授業科目の貢献度		
						正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る	授業科目の貢献度		
		健康科学 〈卓球〉演習B	1			正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。	授業科目の貢献度		
						正確なグリップでラケットを握ることができる。 オーバーヘッドストロークによるラリーができる。 アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る	授業科目の貢献度		
		健康科学 〈バドミントン〉演習B	1			正確なグリップでラケットを握ることができる。 オーバーヘッドストロークによるラリーができる アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る	授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30												30
		30												30
			20											20
			20											20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
			20											20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標		
			必修	選択					
人間科学科目群	Aグループ	哲学B	2	2 4 6			哲学という学問そのものの意義について理解できる。		
							哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。		
		文化人類学A	2	3 5			「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。		
							おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。		
		文化人類学B	2	4 6			自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。		
							授業科目の貢献度		
		Bグループ	歴史学A	1 3 5			現代における人間像について様々な角度から考えることができる。		
							様々な文化を比較することができる。		
							習慣の意味が理解できる。		
							形のないものの価値について考えることができる。		
							現代社会がかかえる問題点について考えることができる。		
		歴史学B	2	2 4 6			授業科目の貢献度		
							アイデンティティとは何かについて理解できる。		
							文化について様々な考え方が理解できる。		
							現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。		
							「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。		
		心理学A	2	1 3 5			コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。		
							授業科目の貢献度		
							日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。		
							国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。		
							西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。		
		心理学B	2	2 4 6			歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。		
							過去の様々な事例から教訓をつけ、現代社会にいかそうとすることができる。		
							授業科目の貢献度		
							日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。		
							東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。		
		他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	2	2 4 6			日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。		
							歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。		
							過去の様々な事例から教訓をつけ、現代社会にいかそうとすることができる。		
							授業科目の貢献度		
							感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。		
		心理学A	2	1 3 5			学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。		
							欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。		
							発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。		
							パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。		
							授業科目の貢献度		
		心理学B	2	2 4 6			自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。		
							人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。		
							対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。		
							集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。		
							集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。		
							授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
						授業科目的貢献度
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
						授業科目的貢献度
		教育心理学	2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代的問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。
						授業科目的貢献度
		政治学A	2	1 3 5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。
						授業科目的貢献度
	Bグループ	政治学B	2	2 4 6	現代日本を含む先進民主主義諸国への政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
						授業科目的貢献度
		経済学A	2	1 3 5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。 以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
						授業科目的貢献度
		経済学B	2	2 4 6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特性・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
						授業科目的貢献度
						授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
		法学A	2	3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業科目的貢献度

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	法学B	2	4 6		日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。 日本国憲法の基本原則が説明できる。 日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。 基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。 表現の自由とその制約原理を説明できる。 違憲立法審査権の具体的な事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学A	2	1 3 5		社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ 方法論的個人主義(ヴェーバー)と方法論的集団主義(デュルケーム)の違いを理解する 社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる 「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する 東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
							授業科目の貢献度
							社会学が持つ分析手法(量的・質的)や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。 個人化という概念について説明できるようになること。 ネオリベラリズム(新自由主義)という概念について説明できるようになること。 非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。 グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。
		社会調査の方法A	2	2 4 6		社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なる論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	社会調査の目的とその種類(質的調査と量的調査)について理解する。 母集団及び標本抽出について理解する。 量的調査のための統計学の基本的知識(基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定)について理解する。 統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。 質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。
							授業科目の貢献度
							社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。 統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。 疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。 調査票作成の技法(ワーディングや尺度構成)を身につける。
							質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
							授業科目の貢献度
	Bグループ	社会調査の方法B	2	4 6		社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施(調査設計、データ収集、データ分析)に必要な知識を学び、それを活用してみる。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究(エリアスタディーズ)で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い合わせることができる。
							授業科目の貢献度
		現代社会論A	2	3 5		ある特定の国や地域(日本を含む)について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究(エリアスタディーズ)で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い合わせることができる。
							授業科目の貢献度
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究(エリアスタディーズ)で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い合わせることができる。
		教育社会学	2	2		社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
							授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
				10										10
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				20										20
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				30										30
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
人間科学科目群	Bグループ	教養総合講座B	4	6		企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関する人間の権利と義務をおさえることができる。 問題解決に向けて新たな提案や構想をもつことができる。
							授業科目の貢献度
							現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関する人間の権利と義務をおさえることができる。 問題解決に向けて新たな提案や構想をもつことができる。
							授業科目の貢献度
							現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関する人間の権利と義務をおさえることができる。 問題解決に向けて新たな提案や構想をもつことができる。
	線形代数1	1	2	1		行列式および行列の基本性質、演算方法を学び、1次連立方程式の解法に応用する。複素数の基本事項についても学ぶ。	行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。
							授業科目の貢献度
							行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。
							授業科目の貢献度
							行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。
専門基礎科目群	線形代数2	2	2	2		高等学校で学んだベクトルをさらに詳しく学んだ後、新しくベクトルの外積を学び、空間図形の解析に応用する。	行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。
							授業科目の貢献度
							空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。 内積の定義および演算法則を説明できる。 成分計算を含め内積を使った計算ができる。 外積の基本性質を説明できる。 成分による外積の計算ができる。 外積を使って、三角形の面積および四面体の体積を計算できる。 固有直交行列によって表される空間の回転の回転軸を求めることができる。
							授業科目の貢献度
							空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。 内積の定義および演算法則を説明できる。 成分計算を含め内積を使った計算ができる。 外積の基本性質を説明できる。 成分による外積の計算ができる。 外積を使って、三角形の面積および四面体の体積を計算できる。 固有直交行列によって表される空間の回転の回転軸を求めることができる。
	基礎物理A	2	2	2		この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場（電界）や磁場（磁界）といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	電気力と電場の関係を説明できる。 電位と静電エネルギーを説明できる。 ミクロな視点で電流を説明できる。 ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。 電流が作る磁場（磁束密度）を図を使って説明できる。
							授業科目の貢献度
							電気力と電場の関係を説明できる。 電位と静電エネルギーを説明できる。 ミクロな視点で電流を説明できる。 ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。 電流が作る磁場（磁束密度）を図を使って説明できる。
							授業科目の貢献度
							電気力と電場の関係を説明できる。 電位と静電エネルギーを説明できる。 ミクロな視点で電流を説明できる。 ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。 電流が作る磁場（磁束密度）を図を使って説明できる。
自然科学系	基礎物理B	2	3	3		基礎物理Bでは熱力学の基礎事項を学びます。この科目では、まず、熱の微視的な理解つまり「物質の構成要素（電子や分子など）の乱雑な運動のエネルギーとして熱が理解できること」を学びます。次に、これを踏まえて、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則を学びます。熱力学は、専門科目においてエンジン燃料の燃焼効率、発電機や電池の発電効率などを考える際の基礎となる重要な科目です。なお、熱力学の内容には、力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。熱力学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	熱力学第1法則を説明できる。 気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。 熱と温度の違いを説明できる。 p-Vグラフと仕事の関係を説明できる。
							授業科目の貢献度
							熱力学第1法則を説明できる。 気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。 熱と温度の違いを説明できる。 p-Vグラフと仕事の関係を説明できる。
							熱力学第1法則を説明できる。 気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。 熱と温度の違いを説明できる。 p-Vグラフと仕事の関係を説明できる。
							熱力学第1法則を説明できる。 気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。 熱と温度の違いを説明できる。 p-Vグラフと仕事の関係を説明できる。
	化学1	2	1	1		元素、原子、分子、化学結合について学び、物質のなりたち、ありようの根源を修得する。	原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質量（モル）についての計算ができる 原子の構造を説明できる 元素の周期律と電子配置を説明できる 化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に応用できる 元素の分類と代表的な単体・化合物の性質を説明できる 原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる 溶液の濃度の計算ができ、性質との関係を説明できる
							授業科目の貢献度
							原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質量（モル）についての計算ができる 原子の構造を説明できる 元素の周期律と電子配置を説明できる 化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に応用できる 元素の分類と代表的な単体・化合物の性質を説明できる 原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる 溶液の濃度の計算ができ、性質との関係を説明できる
							原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質量（モル）についての計算ができる 原子の構造を説明できる 元素の周期律と電子配置を説明できる 化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に応用できる 元素の分類と代表的な単体・化合物の性質を説明できる 原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる 溶液の濃度の計算ができ、性質との関係を説明できる
							原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質量（モル）についての計算ができる 原子の構造を説明できる 元素の周期律と電子配置を説明できる 化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に応用できる 元素の分類と代表的な単体・化合物の性質を説明できる 原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる 溶液の濃度の計算ができ、性質との関係を説明できる
化学2	2	2	2	2		原子、分子の集団として振る舞い、および性質を修得する。	化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる 化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる 化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる 酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に応用できる 代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる 生命と化学との関係を説明できる 環境と化学との関係を説明できる
							授業科目の貢献度
							化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる 化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる 化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる 酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に応用できる 代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる 生命と化学との関係を説明できる 環境と化学との関係を説明できる
							化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる 化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる 化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる 酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に応用できる 代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる 生命と化学との関係を説明できる 環境と化学との関係を説明できる
							化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる 化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる 化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる 酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に応用できる 代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる 生命と化学との関係を説明できる 環境と化学との関係を説明できる

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
						20								20
						20								20
						20								20
						40								40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
						12								16
						10								18
						7								15
						9								18
						6								16
						8								17
0	0	0	0	0	0	52	0	48	0	0	0	0	0	100
						8								18
			</td											

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標				
			必修	選択							
専門基礎科目群	工学基礎系	数学基礎	2	1 2	高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指數関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。					
						分数式の四則計算と部分分数分解ができる。					
						弧度法による一般角の三角関数を説明できる。					
						三角関数の加法定理を用いた計算ができる。					
						指數法則を理解し、それを用いた計算ができる。					
						対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。					
	解析学1					集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。					
						授業科目的貢献度					
						導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。					
						基本関数(べき関数、指數・対数関数、三角・逆三角関数)の微分公式を説明できる。					
専門基礎科目群	解析学2	解析学2	2	1 2	1変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れようとする。	初等関数を微分できる。					
						不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。					
						置換積分法と部分積分法を理解し、それらを応用できる。					
						定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。					
						授業科目的貢献度					
						ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に応用できる。					
	解析学3					ロピタルの定理を理解し、それを不定形の極限計算に応用できる。					
						テーラーの定理を理解し、指數関数・三角関数のテーラー展開がかかる。					
						有理関数の不定積分を計算できる。					
						無理関数・三角関数を含む不定積分を置換積分を用いて計算できる。					
専門基礎科目群	常微分方程式	常微分方程式	2	3 4	解析学1, 2を基にして、多変数関数(主に2変数関数)の微分、積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	定積分の応用として、曲線の長さを計算できる。					
						授業科目的貢献度					
						偏導関数の意味を理解し、初等関数の偏導関数を求めることができる。					
						2変数関数についての合成関数の微分公式(連鎖律)を理解し、それを応用できる。					
						2変数関数の極値を調べることができる。					
	力学1					2重積分の意味と基本性質を説明できる。					
						反復積分公式を使って2重積分を計算できる。					
						変数変換公式を用いる2重積分の計算ができる。					
						授業科目的貢献度					
						常微分方程式とその解の意味を説明できる。					

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
					11		5							16
					6		10							16
					5		7							12
					9		5							14
					6		8							14
					6		6							12
					12		4							16
0	0	0	0	0	55	0	45	0	0	0	0	0	0	100
							10							17
							9							15
							8							18
							8							14
							6							18
							6							18
0	0	0	0	0	47	0	53	0	0	0	0	0	0	100
							8							15
							9							15
							10							18
							7							20
							6							18
							6							14
0	0	0	0	0	46	0	54	0	0	0	0	0	0	100
							8							14
							6							16
							6							20
							6							15
							10							20
							5							15
							5							20
							6							15
0	0	0	0	0	41	0	59	0	0	0	0	0	0	100
							9							15
							4							16
							5							21
							10							15
							7							17
							5							16
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	100
							6							20
							6							20
							6							20
							6							20
							6							20
0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	0	0	0	0	100

科 目 群	区 分	授業 科 目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標	
						学修到達目標	授業科目の貢献度
専門基礎科目群 工学基礎系	力学 力学 力学 力学 力学	力学 力学 力学 力学 力学	2 2 3 2 2	2 2 3 2 2	<p>物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学2という科目的大きな目標は、 (1) 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーを正しく理解する (2) 力学1よりも複雑な運動（特に単振動）を、運動方程式を解いて理解する の二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。の具体例としても、力学は好都合です。</p>	仕事の定義を説明できる。	授業科目の貢献度
						力学的エネルギー保存則を説明できる。	
						単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。	
						円運動と、慣性力としての遠心力を説明できる。	
						力のモーメントの定義を説明できる。	
						授業科目の貢献度	
						運動方程式に基づいて、減衰振動と強制振動を説明できる。	
						角運動量と力のモーメントの定義をベクトルの外積を使って説明できる。	
						単振り子の運動方程式を解き、その運動を説明できる。	
						波動の基本的な性質を説明できる。	
						授業科目の貢献度	
専門基礎科目群 工学基礎系	基礎工学実験 基礎工学実験	基礎工学実験 基礎工学実験	2 2	4	<p>実験によって再確認できるものが自然科学の対象である。この実証主義はガリレオ以来のものである。工学の基礎である物理学、化学の実験によって、実験の方法、意味を修得する。物理学実験では基本的な物理量を測定し、その意味について考える。化学実験では化学反応の本質、物質の定量法について実験を通して理解する。</p>	<物理学実験> ボルダの振り子によって有効重力加速度の値、その誤差を計算できる。 熱の仕事当量の値を測定できる。 ニュートン・リングによって、レンズの曲率半径の値、その誤差を計算できる。 電子の比電荷の値を測定できる。 回転振動体の減衰振動および強制振動を観察し、減衰率や共振曲線を求められる。 <化学実験> 金属陽イオンの反応を理解し、反応式を書くことができる。 酸・塩基の中和反応と滴定曲線を理解し、電離平衡反応の解離定数を計算できる。 酸化・還元反応の本質を理解し、反応式を書くことができる。 気体の発生・捕集の実験結果の解析において、気体の状態方程式を使うことができる。 電気化学反応を化学反応式を用いて説明できる。	授業科目の貢献度
						授業科目の貢献度	
						機械工学で取り扱う簡単な整式の加減乗除ができる。	
						機械工学分野で取り扱う方程式の計算に慣れ、関数に応用できる。	
						機械工学分野で取り扱う三角関数で、余弦・正弦定理や加法定理を用いた計算に慣れ、活用できる。	
専門基礎科目群 工学基礎系	機械数学基礎演習 機械工学基礎A	機械数学基礎演習 機械工学基礎A	1 1	1 1	<p>高校で学んだ数学と機械工学基礎分野で適用する数学を、滑らかにつながるように橋渡しをする。ここでは力学分野で用いる簡単な整式、三角関数やベクトル等を重点に学ぶ。授業中の演習を重視し、できるだけ具体的な計算、に慣れるようにする。</p> <p>機械工学の4力学に適用する数学の基礎を学ぶ。高校の数学や物理で学んだことを基盤に、機械工学分野で扱う各種式を想定した微分・積分などの具体的な使い方を学習する。できる限り具体的な数値計算に慣れるよう講義中の演習を重視する。</p>	機械工学分野で取り扱う簡単な整式の加減乗除ができる。	授業科目の貢献度
						機械工学分野で取り扱う方程式の計算に慣れ、関数に応用できる。	
						機械工学分野で取り扱う三角関数で、余弦・正弦定理や加法定理を用いた計算に慣れ、活用できる。	
						機械工学分野で取り扱うベクトルの足し算、引き算に慣れ、活用できる。	
						授業科目の貢献度	
専門基礎科目群 工学基礎系	機械工学基礎B	機械工学基礎B	2 2	1	<p>機械工学における機械力学や材料力学、設計分野の計算で必要とされる基本的な知識を学ぶ。機械工学分野では慣例的にSI以外の単位も使用することも多く、それらについても学習する。また、変数として用いられるギリシャ文字など、必要とされる多くの周辺知識の使用に慣れるようにする。</p>	機械工学分野で取り扱う指數・対数の計算ができる。	
						機械工学分野で取り扱う使用する関数の導関数の導出と計算ができる。	
						機械工学分野で取り扱う使用する関数の原始関数の導出ができる。	
						例示した運動などの物理現象に対して、微積分が含まれた式を立てることができる。	
						4力学で出てくる偏微分・重積分の計算ができる。	
						授業科目の貢献度	
						国際単位系(SI)や機械工学で使用される単位について理解する。	
						機械工学分野で使用される単位の変換を確実にできる。	
						機械工学で使用されるギリシャ文字の読み書きができる。	
						関数電卓の使用方法を理解し、計算問題において使用できる。	
						授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
					2		18							20
					2		18							20
					2		18							20
					2		18							20
					2		18							20
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	100
					3		23							26
					3		23							26
					2		22							24
					2		22							24
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	100
														0
							10							10
							10							10
							10							10
							10							10
							10							0
							10							10
							10							10
							10							10
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
								25						25
								25						25
								25						25
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
									20					20
								20						20
								20						20
									10	10				20
									10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	100
									20					20
									20					20
									20					20
									20		10	10		40
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	10	10	0	0	100

科 目 群	区 分	授業 科 目	履修区分 (単位) 必 修 選 択 自 由	開 講 期	学修内容	学修到達目標		
						授業科目的到達目標	評価基準	
専門基礎科目群	工学基礎系	機械工学基礎C	2	1	パーソナルコンピューターを使い、機械工学科の学生として必要な基礎を学ぶ。インターネットを使用する上で重要な情報リテラシーについて学んだ上で、レポート作成に必要なアプリケーションの基本操作方法を学ぶ。さらに、設計ツールであるCADの基本操作を習得し、3次元立体物の作成や、立体物の2次元表記法の基礎を学ぶ。	情報リテラシーについて理解・説明ができる。		
						ワードプロセッサを使用した簡単なレポートの作成ができる。		
						表計算ソフトを使用した簡単な計算、グラフの作成ができる。		
						CADソフトを使い3次元立体物の制作ができる。		
						CADソフトを使い3次元立体物を2次元の図面へ展開できる。		
		機械入門セミナー	1	1		授業科目の貢献度		
						機械とはどのようなものであるか説明できる。		
	機械セミナー	機械セミナー	1	2		力学系（材料力学・機械力学・流体力学・熱力学）の各分野の必要性と概要を理解することができる。		
						応用系（材料・加工・制御・設計製図）の各分野の必要性と概要を理解することができる。		
						授業科目の貢献度		
専門科目群	工業力学	工業力学	2	2	機械工学科で学ぶ、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学は、エンジニアとして、習得すべき最も重要な科目として位置づけられている。工業力学では、これらの学習に必要な数学、物理学に関連した基礎知識を習得する。	工場見学を通じて、課題に必要な情報を集めることができる。		
						紙の材料特性（引張・圧縮）を理解できる。		
						片持ち梁の製作に自分のアイデアを活かすことができる。		
						評価の結果を用いて、自分のアイデアに対する評価ができる。		
						授業科目の貢献度		
	基幹科目	加工学基礎	2	2		複数の力を合成することができる。		
						モーメントのつり合い式をたてることができる。		
						偶力とは何かを説明できる。		
						面積の重心を求めることができる。		
						体積の重心を求めることができる。		
専門科目群	機械力学基礎	機械力学基礎	2	3		相対速度とは何かを説明できる。		
						放物運動で最大到達距離を求めることができる。		
						すべり摩擦力を求めることができる。		
						授業科目の貢献度		
						機械を製作するためのあらすじを図にまとめることができる。		
	材料力学基礎	機械力学基礎	2	3		大別された工業材料の種類と、材料の特性について説明できる。		
						切削加工法の種類を挙げることができる。		
						研削加工法と砥粒加工法の違いを説明できる。		
						熱間加工と冷間加工の違い、プレス成形加工について説明できる。		
						エンジンや各種部品などを製造する鋳造加工法の特徴をあげることができる。		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	0	100
								20						20
								10				30		40
								10				30		40
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	60	0	100
												20		20
												20		20
												30		30
												30		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
									15					15
									15					15
									15					15
									10					10
									10					10
									15					15
									10					10
									10					10
									10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										10				10
									10					10
										10				10
										10				10
										10				10
										10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	40	0	0	0	100
										20				20
										20				20
										20				20
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
									10					10
									10					10
									20					20
									20					20
									10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	90	10	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標			
			必修	選択						
専門科目群	基幹科目	機械材料基礎	2	3	機械材料に必要な性質(変形と強さ)を学び、材料のミクロな構造とこれらの性質との関りについて学ぶ。さらに、ミクロな構造を制御する方法(熱処理)に関して、温度と冷却速度によりミクロ組織が変化する現象(変態)への理解を深める。	機械材料に求められる性能について説明できる。				
						金属結晶の変形と転位の役割について説明できる。				
			2	4		状態図と組織のでき方について説明できる。				
						純鉄の変態と組織について説明できる。				
		熱力学基礎	2			鉄一炭素平衡状態図について説明できる。				
						鉄鋼材料の強さでのマルテンサイト変態の働きについて説明できる。				
		流体力学基礎	2	4		授業科目的貢献度				
						熱力学で扱う物理量(温度、圧力、比熱、熱量、比体積、質量など)について説明できる。				
						熱力学の第一法則を理解し、熱量、内部エネルギー、エンタルピーについて説明できる。				
						理想気体の状態変化(過程)について説明できる。				
						カルノーサイクルを理解し、その効率について説明できる。				
強度設計系	要素・機構設計学	機械要素	2	4		授業科目的貢献度				
						国際単位系(SI)を用いて、密度、粘度、動粘度、力、圧力などの用語を理解し、説明できる。				
						ニュートンの粘性法則からせん断応力を求めることができる。				
						液柱圧力計の原理を理解し、問題を解くことができる。				
						壁面に働く力、表面張力、浮力を理解し、問題を解くことができる。				
	機械英語A	機械英語	2	5		連続の式とベルヌーイの定理を理解し、速度や圧力を求めることができる。				
						流量測定法や流速測定法の原理を理解し、説明できる。				
						授業科目的貢献度				
						機械の構造と機構について説明できる。				
						部材に作用する荷重の種類と応力について計算できる。				
機械工学	機械力学	機械力学	2	4		軸の強さについての計算と説明ができる。				
						ねじの種類と各種の荷重に対する強さの計算が説明できる。				
						転がり軸受の種類と用途について説明ができる。				
						授業科目的貢献度				
						数学、物理などで用いられる専門用語を理解できる。				
	振動工学	振動工学	2	5		英語で数式の説明ができる。				
						英語で図、グラフ、表などの説明ができる。				
						数学、物理などの基本的な問題を英語で解答することができる。				
						授業科目的貢献度				
						機械工学系の専門用語を調べることができる。				

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
										20				20
										20				20
										20				20
										10				10
										20				20
										10				10
										10				10
										10				10
										10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										25				25
										25				25
										25				25
										10	15			25
0	0	0	0	0	0	0	0	85	15	0	0	0	0	100
										15				15
										15				15
										15				15
										10	10			20
										10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	100
										5	5	10		20
										5	5	10		20
										15	5	20		20
										15	5	20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	65	15	0	0	100
										10	10			20
										10	10			20
										10	10			20
										10	10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	10	10	0	0	100
										10	10			20
										10	10			20
										10	10			20
										10	10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	10	10	0	0	100
										10	10			20
										10	10			20
										10	10			20
										10	10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	10	10	0	0	100
										10				10
										10				10
										20	20			40
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	60	20	0	0	0	100
								10						10
								10	20					30
								10						10
								10	20					30
								20					</td	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標		
専門科目群	強度設計系	材料力学	2	4	材料力学基礎の展開科目として、軸のねじり、組み合わせ応力とモールの応力円、柱の座屈、ひずみエネルギーなどについて学び、これらをより実際的な問題の応力や変形の解析に適用して、強度計算の基礎を学習する。	軸のねじり応力を求めることができる。		
						組合せ応力を求めることができる。		
		材料強度設計学	2	6		モールの応力円が描ける。		
						オイラーの座屈荷重を求めることができる。		
						ひずみエネルギーを求めることができる。		
	応用機械工学系	応用機械工学A	2	5		カスティリアノの定理が説明できる。		
						材料の破損と破壊の法則について説明できる。		
		応用機械工学B	2	6		応力集中について説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						弾性および塑性変形機構が説明できる。		
専門科目群	展開科目	自動車工学	2	7		応力-歪カーブが説明できる。		
						疲労・破壊・クリープの現象が説明できる。		
		エネルギー	2	5		材料強度を結晶学の視点(転位)で説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						材料・加工分野で学修した内容の復習ができ、より理解を深めることができる。		
	エネルギー系	熱エネルギー工学	2	6		材料・加工分野で専門性・先進性の高い内容について学修を進めることができる。		
						学習した専門性の高い内容を産業界での位置づけで理解できる。		
		熱移動工学	2	6		機械工学で学んだことを社会で活かすことについて説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						エネルギー分野で学修した内容の復習ができ、より理解を深めることができる。		
	流体力学系	流体力学1	2	5		エネルギー分野で専門性・先進性の高い内容について学修を進めることができる。		
						学習した専門性の高い内容の産業界での位置づけを理解できる。		
		流体力学2	2	5		機械工学で学んだことを社会で活かすことについて説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						エネルギー分野で学修した内容の復習ができ、より理解を深めることができる。		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
								5	10					15
								5	10					15
								5	10					15
									10					10
									10					10
									10					10
									10					10
									15					15
0	0	0	0	0	0	0	0	15	85	0	0	0	0	100
									30					30
									30					30
									25					25
									15					15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
									5	5	10	10		30
									10	10	10			30
									10	10	10			20
									10	10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	40	40	0	0	100
									5	5	10	10		30
									10	10	10			30
									10	10	10			20
									10	10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	40	40	0	0	100
									5	5	10			20
									5	5	10			20
									5	5	10			20
									5	5	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	50	0	0	100
										25				25
										25				25
										10	10	5		25
										10	10	5		25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	20	10	0	0	100
										20				20
										20				20
										15	5			20
										20				20
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	95	5	0	0	0	100
										20				20
										20				20
										10	10			20
										20				20
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	0	0	0	100

科 目 群	区 分	授 業 科 目	履修区分 (単位)		開 講 期	学修内容	学修到達目標							
			必 修	選 択										
専門科目群	エネルギー系	流体力学2	2	6		流体力学基礎で習得した内容を基礎にして、実在流体(粘性流体)の物体周りの流れや乱流などの工業的に重要な流動現象について学ぶ。具体的な演習で理解を深める。	レイノルズ数の物理的な意味を説明できる。							
							ナヴィエ・ストークスの式について説明できる。							
			2				境界層のはく離について説明できる。							
		計測工学					円柱周りの流れとカルマン渦を説明できる。							
							翼が浮上するメカニズムを説明できる。							
							授業科目の貢献度							
							センサーの種類や用途が説明できる。							
		制御工学	2	4		機械工学において、材料の強度や変形、加工における抵抗力、熱流体の温度、圧力などを測定することは非常に重要である。本講義では各種の物理量を計測するセンサの種類、用途、機能、および計測の原理について学ぶ。	機械工学で使用されるセンサーの仕組みが説明できる。							
							機械工学で使用されるセンサーの選択ができる。							
			2				授業科目の貢献度							
							ラプラス変換を用いて運動方程式を解くことができる。							
	展開科目	電気工学	2	5		制御系を表す強制入力項をもつ運動方程式(微分方程式)を解くための、ラプラス変換、逆ラプラス変換について学ぶ。また、制御系の入出力特性の評価方法や制御系の安定性の解析方法について説明する。	ブロック線図を用いてシステムを表現できる。							
							基本的なシステムのインパルス応答を求め、システムの特性を調べることができる。							
							システムの安定性について説明でき、簡単なシステムの安定性判別ができる。							
							フィードバック制御とフィードフォワード制御の特徴について説明ができる。							
	航空宇宙工学	6	2	7		電気回路に用いられる基本法則を理解し、基本的な回路の解析法を学ぶ。さらにダイオード・トランジスタ・オペアンプといった素子の特徴とそれらを有する回路の解析方法を学ぶ。	授業科目の貢献度							
							オームの法則・キルヒホッフの法則を用いて抵抗と電源のみの直流回路の解析ができる。							
							正弦波交流電源で駆動された簡単なRLC回路の定常解析ができる。							
							ダイオード・トランジスタを有する電子回路の解析ができる。							
材料加工系	機械材料学	機械材料学	2	4		自動車などの各種機械や各種装置機器の製造に用いられる鉄鋼材料やアルミニウム、マグネシウム、チタン、および非金属材料(セラミックス、プラスチック)について学習する。この際、関連の深い生産プロセス(熱処理・溶接・切削・鋳造・塑性加工など)との関連にも留意する。	オペアンプを有する簡単な電子回路の解析ができる。							
							授業科目の貢献度							
							航空機および宇宙機の歴史について説明できる。							
							飛行機はなぜ飛ぶのかを理解できる。							
							音速とマッハ数の関係を説明できる。							
							超音速流れを実現する方法を説明できる。							
	機械加工学	機械加工学	2	5		航空機および宇宙機の発達史、および航空宇宙技術の基礎について述べた上で、圧縮性流体を支配する基礎方程式について講述し、超音速流れの実現方法・宇宙飛行体の熱防護などの応用例についても言及する。	宇宙機における空力加熱と熱防護について簡単に説明できる。							
							授業科目の貢献度							
							薄鋼板の種類と利用方法について説明できる。							
							厚鋼板の種類と溶接部での材質変化について説明できる。							
機械加工学	機能材料工学	機能材料工学	2	6		機械構造用鋼の種類と熱処理について説明できる。	機械構造用鋼の種類と熱処理について説明できる。							
							各種の中～高炭素鋼やステンレス鋼について説明できる。							
							アルミニウム、マグネシウム、チタンなどの非鉄金属・合金について説明できる。							
							セラミックスおよびプラスチックについて説明できる。							
							授業科目の貢献度							
	機械加工学	機械加工学	2	7		電子材料の特徴と用途が説明できる。	電子材料の特徴と用途が説明できる。							
							液晶・高分子・セラミックスなどの特徴と用途が説明できる。							
							超伝導などの最新材料の特徴が説明できる。							
							材料の電気伝導性、熱伝導性、磁性が説明できる。							
機械加工学	機械加工学	機械加工学	2	8		授業科目の貢献度	授業科目の貢献度							
							高精度・高品位加工法である創成加工学の概念を説明できる。							
							切削加工の機構を説明できる。							
							研削加工の機構を説明できる。							
							工具材料の基礎的な種類と機構について説明できる。							

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
								10	10					20
								10	10					20
								20						20
								20						20
								20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	0	100
								10	10	20				40
								10	10	20				40
								20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	60	0	0	0	100
								20						20
								20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								10		15				25
								10		15				25
								10		15				25
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	60	0	0	0	100
								10		5				15
								10		5				15
								10		10				20
								10		10				30
0	0	0	0	0	0	0	0	10	40	10	40	0	0	100
								20						20
								20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								10	10	5				25
								10	10					20
								20		5				25
0	0													

科 目 群	区 分	授 業 科 目	履修区分 (単位)		開 講 期	学修内容	学修到達目標	
			必 修	選 択				
専門科目群	材料・加工系	変形加工学	2	4	学修内容	金属材料の塑性変形機構と機械的特性を説明できる。		
						応力・ひずみの概念、応力とひずみの関係を説明できる。		
						各種塑性加工法の力学的関係式から加工力を計算できる。		
						板材を製造する一次加工（代表的技術である圧延）と、この素形材を用いて製品を製造する二次加工（代表的技術であるプレス加工や鍛造加工）に関してその基礎的要素技術と応用例を学習する。		
	溶融加工学	溶融加工学	2	5		塑性加工における潤滑剤の果たす役割を説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						溶融物質の特性について説明できる。		
						鋳型製品を作るまでの工程を説明できる。		
						鋳物の各部の名称とその役割を説明できる。		
						鋳造品を製作するために必要な鋳型の種類と特徴をあげることができる。		
専門科目群	表面加工学	表面加工学	2	6		生砂型鋳造法について説明できる。		
						シェルモールド鋳造法、ダイカスト鋳造法、精密鋳造法の概要を説明できる。		
						金属溶接法の種類とその熱エネルギー源を説明できる。		
						溶接により発生する熱影響部と材質変化について説明できる。		
						アーク溶接法の原理について説明できる。		
						抵抗溶接、ろう付け、拡散溶接などの各種溶接法の概要を説明できる。		
専門科目群	環境工学	環境工学	2	7		授業科目の貢献度		
						表面に求められる特性とその評価方法について説明できる。		
						エッチング、レーザー加工などの表面加工の概要を説明できる。		
						真空の概念を説明できる。		
	実験・実習・設計演習系	基礎機械製図	2	2		プラズマを発生させる原理を説明できる。		
						PVD 法、CVD 法について説明できる。		
						窒化処理、ビーニング処理などの表面改質処理法について説明できる。		
						授業科目の貢献度		
						我々の直面している環境問題について説明できる。		
						環境に関する国内法および国際規格について説明できる。		
専門科目群	機械設計製図1	機械設計製図1	2	3		廃棄物のリサイクルの現状を一例として挙げて説明できる。		
						ごみ処理システムの考え方について説明できる。		
						環境マネジメントシステムについて説明できる。		
						環境適合設計の考え方について説明できる。		
	機械設計製図2	機械設計製図2	2	4		LCA の定義について説明できる。		
						LCA の評価のためのケース・スタディができる。		
						授業科目の貢献度		
						JISB0001 規格に則った作図ができる。		
						線の種類と使い方について説明できる。		
						投影法について説明できる。		

学科（専攻）の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
								10		10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	30	50	0	0	0	100
											10			10
										10				10
										10				10
										10				10
										10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
										5	10	5		20
										20				20
										5	10			15
										5	10			15
										15				15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	80	5	0	0	100
										10				10
										20				20
										10				10
										10				10
										10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
										20				20
										20				20
										10	10			20
										10	10			20
										10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	100
										5	10			15
										5	10			15
										5	20			25
										5	20			25
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	80	0	0	100
										15	15			30
										10	15			25
										10	15			25
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	65	0	0	100

科 目 群	区 分	授業 科 目	履修区分 (単位) 必 修 選 択 自 由	開 講 期	学修内容	学修到達目標	
						授業科目的到達目標	授業科目的貢献度
専 門 科 目 群 実 験 ・ 実 習 ・ 設 計 ・ 展 開 科 目	应用 设计 演 习 1	应用 设计 演 习 1	2	5	これまでに学んだ材料力学、機械設計学、生産プロセス等を基礎としてバニタグラフ型ねじ式ジャッキを設計・製図する。各自が設定した呼び荷重からアームなど主要部分にかかる各応力を計算し、材料と加工方法を考慮して計画図を作成し、各部品図・組立図を描く。	設計仕様を満たすための基本的な荷重・モーメント計算ができる。 設計手順が説明でき、簡単な組立図を描くことができる。 機械部品に加わる力が解析でき、許容応力を用いて部品の大きさを決定することができる。 機械に用いる標準部品（ねじ、軸受、止め輪等）をJIS規格から選択できる。 機械材料の特性を知り、使用箇所への応用ができる。	授業科目的貢献度
						与えられた設計課題に対し、許容応力を用いた設計計算ができる。 設計手順が説明でき、簡単な組立図を描くことができる。 機械部品に加わる力が解析でき、許容応力を用いて部品の大きさを決定することができる。 機械に用いる標準部品（ボルト、軸受など）をJIS規格から選択できる。 機械材料の特性を知り、使用箇所への応用ができる。	授業科目的貢献度
						FORTRANによって四則演算を実行できる。 主な組み込み関数(sqrt, abs, sin, cosなど)を使用した計算ができる。 do文を用いて繰り返し計算ができる。 do while文を用いて条件判断ができる。 行列の演算プログラムが理解できる。	授業科目的貢献度
						数値計算法1	授業科目的貢献度
						数値計算法2	授業科目的貢献度
	実 験 ・ 実 習 ・ 設 計 ・ 展 開 科 目	シミュ レ ー シ ョ ン 工 学	2	6	計算力学の初步として、方程式の解を求める逐次二分法やニュートン法によるプログラム作成や数値積分法として台形公式やシンプソンの公式を用いたプログラムの作成を行う。	数値計算における誤差を説明できる。 簡単な图形の面積を求めるプログラムができる。 2次方程式の解を求めるプログラムの作成ができる。 逐次二分法によって解を求める考え方方が理解できる。 配列計算など、配列を用いたプログラムの作成ができる。	授業科目的貢献度
						シミュレーションの概略を説明できる。 二次元の解析モデルの作成、線形静的問題の解析ができる。 三次元の解析モデルの作成、線形静的問題の解析ができる。 計算条件、境界条件について説明でき、現象により線形・非線形を適切に選択できる。 自ら各種の計算条件を変更して結果の比較ができる。	授業科目的貢献度
						機械製作実習1	授業科目的貢献度
						機械製作実習2	授業科目的貢献度
						機械工学実験1	授業科目的貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計	
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100
										5	5	5	10		25
										5	5	5	10		25
											5	10			15
											5	10			15
											20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	20	60	0	0		100
										5			10		15
										5			10		15
										5		5	10		20
											5	20			25
											5	20			25
0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15	70	0	0		100
										10	10				20
											15	5			20
											15	5			20
											15	5			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	70	20	0	0		100
											20				20
											20				20
											20				20
											20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100
											20				20
											20				20
											20				20
											20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100
										10	10	10			30
											20				20
											20	10			30
											20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	70	10	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
						機械工学の理論にもとづいてどのような現象が現れるか予測できる。 正しい実験データの取り方、その処理ができる。 明確に整理した技術レポートを報告書として作成できる。 実験で得た現象を理論的に説明できる。
実験・実習・設計演習系	機械工学実験2		2	6	機械工学で扱われる基本的な諸現象について、理論と実際を関連付けて学んで行く。また、どのようにして実際の現象と理論とが結びつくのか考える。	授業科目の貢献度
展開科目	品質管理		2	7	企業で作られる製品やサービスには、常に顧客の望む品質が保たれているかが重要である。特に設計、製造段階での品質特性を把握して、統計的な考え方や品質管理手法を用いることが必要である。そこで消費者の立場だけではなく、物を作る立場やサービスを提供する立場から、品質を管理していくのに必要な具体的な手法を習得する。より良い品質を作り上げるには、どのようにする必要があるかを学ぶ。	どのようにして、ものづくり現場で品質管理をしているのか、品質管理の重要性を認識できる。 統計的処理法を理解し、具体例について計算できる。 管理図の作り方をマスターして、問題を解くことができる。 トヨタ生産方式の考え方、基本思想とその展開を説明できる。
	工業経営論		2	7	工業分野の経営者やマネジメントを担うリーダーが「経営」といわれるものに関してもつべき基本的知識である。具体的には、経営戦略・組織・人をいかにつくり、動かすか、生産活動に必要な資金や資材をいかに調達・活用するかといった事柄に関する知識のことである。機械技術者としての役割を担うとき、工業知識や技術的なセンスに加え、マネジメントやマーケティング、生産システムの基礎概念を知っていることは強力な武器となる知識を習得する。	経営（マネジメント）とは何かを説明できる。 マーケティングとは何かを説明できる。 財務諸表の読み方を説明できる。 生産活動におけるマネジメントの対象とその手法を説明できる。 工業におけるマネジメント（経営）について説明できる。 経済新聞に書いてある内容を理解できる。
関連科目	科学技術史と技術者倫理		2	8	私たちは高度に発達した科学・技術の恩恵を享受して生活している。そのような社会を今後も持続し、問題を解決しつつ発展させていくためには、科学および技術の本質を見極める力が求められる。本講義では、過去の技術がどのような経緯で発達してきたか、また産業や文化にどのような影響を与え、人類にどのような貢献をしてきたかを振り返り、科学・技術の功罪を考察する。さらに、今後の科学・技術の発展がどうあるべきかを考える。	技術者の社会における役割と責任について理解する。 最近の事故事例を通じて、技術者がとるべき倫理的な行動について理解する。 安全に対する基本的な考え方と、リスク対応について説明できる。 科学技術を歴史的に分析して説明できる。 今後の科学技術の進むべき方向を論議できる。
	知的財産権と情報倫理		2	8	国際的な競争力を高めるためには、発明をはじめとする知的創造活動の成果を十分に保護することが重要である。本講義では、特許の出願を通じて集まる最新の技術データの分析・調査の方法から出願に至るまでの手法および不正競争、著作権等の知的財産権の科学技術者の置かれる状況を分析しつつ、知的財産権の概要の習得を目指す。さらに、インターネットの普及に伴い、ドメイン名、デジタルコンテンツ等に関する情報倫理について学ぶ。	知的所有権制度の目的について説明できる。 特許になる発明の条件を挙げることができる。 特許に関する調査と出願手続について説明できる。 特許権の効力と紛争解決の方法について概要を説明できる。 特許権以外の知的所有権について概要を説明できる。 我々が共有する情報に関する倫理について理解し、説明できる。
	インダーランシップ (学外研修)		2	6	インダーランシップとは、学生が企業等において専門に関連した実習や研修的な就業体験をする制度のことである。社会は、国際化・情報化の進展。産業構造の変化などにより大きく変化し、産業界のニーズに応えられる人材育成が求められている。 本研修では、専門知識と実地の経験を結びつけることにより、学習意欲を高揚し、自己の職業適性や将来設計について考える機会を得るとともに、職業選択の萌芽を目指す。	企業の従業員と挨拶を交わすことができる。 作業日誌を作成できる。 企業の指導員との意思疎通が図ることができる。 研修期間中に、報告、連絡、相談することができる。 研修報告会において、発表ができる。
						授業科目の貢献度

学科（専攻）の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
								10	10	10				30
										20				20
										20	10			30
										20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	70	10	0	0	100
									10		10			20
									10		20			30
									10		20			30
									10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	100
											20			20
											20			20
											20			20
											10			10
											10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
											20			20
											20			20
											20			20
											20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
											20			20
											20			20
											20			20
											10			10
											10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100
											10			10
											15			15
											5	5	15	25
											5	5	15	25
											5	5	15	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	70	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択				
専門科目群	卒業研究	総合セミナー	2	6		卒業研究を担当するそれぞれの教員が分担することによって、少人数の学生と教員との密接な人間関係を形成し、色々な相談に応じながら指導を実施する。		
		機械創造工学セミナー	2	7		これまでに学んだ事を基として、より高度な文献を調査できるように基礎学力の向上と、卒業研究導入への足がかりとなる文献の調査を行い、指導教員と研究の打ち合わせを行う。		授業科目の貢献度
	卒業研究	卒業研究	6	7.8		これまで学んできた授業科目の総括的成果にあたる。指導教員のもとで、自主性、総合力、分析力、問題解決能力やコミュニケーション能力の発揮を目指して、卒業論文としてまとめて教員の前でプレゼンテーションを行う。		授業科目の貢献度
								授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
												20	40	40
														0
														0
														0
														0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	40	100
												20	40	100
														0
														0
														0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	40	100
												20	40	100
														0
														0
														0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	40	100
												20	40	100
														0
														0
														0
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	30	50	100	
														0
														0
														0
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	30	50	100	

■ 機械工学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数		毎週授業時間数						備考	
					1年次		2年次		3年次			
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	
人間科学科目群	A グループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1	2	[2]					
		基礎英語セミナー	1			2	[2]					
		資格英語1	1			2	[2]					
		資格英語2	1			2	[2]					
		英語スキル1	1			2	[2]					
		英語スキル2	1			2	[2]					
		英語スキル3	1			2	[2]					
		英語スキル4	1			2	[2]					
		実践英語1		1		2						
		実践英語2		1		2					2	
	B グループ	中国語入門1			1	2						
		中国語入門2			1	2						
		健康科学演習A	1			2						
		健康科学演習B	1			2						
		日本文学A			2			2	2	2	2	
		日本文学B			2			2	2	2	2	
		外国文学A			2		2	2	2	2	2	
		外国文学B			2		2	2	2	2	2	
		哲学A			2		2	2	2	2	2	
		哲学B			2		2	2	2	2	2	
	人間・歴史文化・このころの理解	文化人類学A			2			2	2	2	2	
		文化人類学B			2			2	2	2	2	
		歴史学A			2		2	2	2	2	2	
		歴史学B			2		2	2	2	2	2	
		心理学A			2		2	2	2	2	2	
		心理学B			2		2	2	2	2	2	
		教育原理			2							
		教育心理学			2			2				
		政治学A			2		2	2	2	2	2	
		政治学B			2		2	2	2	2	2	
	国際情勢と社会のしくみ	経済学A			2		2	2	2	2	2	
		経済学B			2		2	2	2	2	2	
		法学A			2		2	2	2	2	2	
		法学B			2		2	2	2	2	2	
		社会学A			2		2	2	2	2	2	
		社会学B			2		2	2	2	2	2	
		社会調査の方法A			2		2	2	2	2	2	
		社会調査の方法B			2		2	2	2	2	2	
		現代社会論A			2		2	2	2	2	2	
		現代社会論B			2		2	2	2	2	2	
		教育社会学			2		2					
	科学的なものを見方と環境問題	健康科学A			2		2	2	2	2	2	
		健康科学B			2		2	2	2	2	2	
		認知科学A			2		2	2	2	2	2	
		認知科学B			2		2	2	2	2	2	
		環境科学A			2		2	2	2	2	2	
		環境科学B			2		2	2	2	2	2	
		自然科学概論A			2		2	2	2	2	2	
		自然科学概論B			2		2	2	2	2	2	
		生物学A			2		2	2	2	2	2	
		生物学B			2		2	2	2	2	2	
		地球科学A			2		2	2	2	2	2	
		地球科学B			2		2	2	2	2	2	

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数		毎週授業時間数						備考		
						1年次		2年次		3年次				
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期		
人間科学科目群	Bグループ	学問アプローチの複眼的	リベラルアーツ特別講義 リベラルアーツ実践演習A リベラルアーツ実践演習B 教養総合講座A 教養総合講座B	2 2 2 2 2			◎		2 2 2 2	2 2 2 2			集中	
合計				9	90	3	32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]	42		
							102							

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
						1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門基礎科目群	自然科学系	基礎数学セミナー			1	2	[2]								
		基礎理科セミナー			1	2	[2]								
		線形代数1	2		2										
		線形代数2	2		2										
		基礎物理A	2		2										
		基礎物理B	2		2										
		現代物理学1	2		2										
		現代物理学2	2		2										
	工学基礎系	化学1	2		2									履修者指定	
		化学2	2		2									履修者指定	
専門科目群	基幹科目	数学基礎	2		2	2	(2)								
		解析学1	2		2	2	(2)								
		解析学2	2		2	2	(2)								
		解析学3	2		2	2	(2)								
		常微分方程式	2		2	2	[2]								
		力学1	2		2	2									
		力学2	2		2	2									
		力学3	2		2	2									
		基礎工学実験	2		1	2									
		機械数学基礎演習	2		2	2									
専門科目群	強度設計系	機械工学基礎A	2		2	2									
		機械工学基礎B	2		2	2									
		機械工学基礎C	2		2	2									
		小計	10	27	6	22	10 (4) [6]	8 (2)	8 (2)	(2)					
			43												
		機械入門セミナー	1			2									
		機械セミナー	1			2									
		工業力学	2			2									
		加工学基礎	2			2									
		機械力学基礎	2			2									
専門科目群	展開科目	材料力学基礎	2			2									
		機械材料学基礎	2			2									
		熱力学基礎	2			2									
		流体力学基礎	2			2									
		要素・機構設計学	2			2									
		機械英語A	2			2									
		機械英語B	2			2									
		機械力学	2						2						
		振動工学	2						2						
		材料力学	2						2						
専門科目群	材料・加工系	材料強度設計学	2						2						
		自動車工学	2						2						
		熱エネルギー工学	2						2						
		熱移動工学	2						2						
		流体力学1	2						2						
		流体力学2	2						2						
		計測工学	2						2						
		制御工学	2						2						
		電気工学	2						2						
		航空宇宙工学	2						2						
専門科目群	材料・加工系	応用機械工学B	2						2						
		機械材料学	2						2						
		機能材料工学	2						2						
		機械加工学	2						2						
		変形加工学	2						2						
		溶融加工学	2						2						
		表面加工学	2						2						
		環境工学	2						2						
		応用機械工学A	2						2						

(次ページにつづく)

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
専門科目群	実験・実習・設計演習系	展開科目					1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
		基礎機械製図	2				4								集中	
		機械設計製図1	2					4								
		機械設計製図2	2						4							
		応用設計演習1		2							2					
		応用設計演習2		2							2					
		数値計算法1		2							2					
		数値計算法2		2							2					
		シミュレーション工学		2							2					
		機械製作実習1	2				4									
		機械製作実習2	2					4								
		機械工学実験1	2							4						
		機械工学実験2	2							4						
	関連科目		品質管理		2									2		
			工業経営論		2									2		
			科学技術史と技術者倫理		2									2		
			知的財産権論と情報倫理		2								◎			
			インターンシップ(学外研修)		2											
	卒業研究		総合セミナ	2									2			
			機械創造工学セミナ	2									2			
			卒業研究	6								◎	◎	◎		
	小計			42	68			2	14	16	20	26	24	12	4	
						110										
	自由科目		幾何学1			2						2				
			幾何学2			2						2				
			数理統計学1			2						2				
			数理統計学2			2						2				
			応用解析1			2						2				
			応用解析2			2						2				
			応用解析3			2						2				
			応用解析4			2						2				
			線形代数3			2						2				
			代数系入門			2						2				
			工学概論			2						2				
			職業指導1			2						2				
			職業指導2			2						2				
	小計					26						2	2	6	4	
						26								6	6	
	合計			52	95	32		24	24	26	30	32	28	18	10	
						179		[6]	(4)	(2)	(2)	(2)				

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。

2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

卒業の認定

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。

4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
21 生	卒業要件として認められる単位のうち、104 単位以上修得すること。	機械入門セミナ 機械セミナ 総合セミナ	基礎英語セミナ 基礎数学セミナ 基礎理科セミナ

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して 27 単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナ、基礎数学セミナ、基礎理科セミナの 3 科目については、卒業研究履修基準の必要単位数(104単位)には含みませんが、合格していることが必要です。

<不合格者>4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	科目群	必要単位数	
21 生	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	専門基礎科目群	必修科目 10 単位を含め 18 単位以上	左記条件を満たし 97 単位以上
	専門科目群	必修科目 42 単位	

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

【他学部・他学科履修】

情報学部及び工学部の各学科の専門基礎科目群・専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。但し、工学部の各学科の専門基礎科目群・自然科学系及び工学基礎系の同一科目名称科目は除く。

先修条件について

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件(「先修条件」)がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
		科目名	期	必選	科目名	期	必選
21 生	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	必
		力学3	3	選	力学2	2	選